

運-特3	コース名：(特設)工業港開発	定員 10名
------	----------------	-----------

受入期間： 57. 2. 4 ~ 57. 3. 20
 関係省庁： 運輸省港湾局
 受入機関： 財団法人国際臨海開発研究センター
 国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
ブラジル	3	0			
ナイジェリア	2	2			
マレーシア	2	1			
アルゼンティン	2	1			
エジプト	3	1			
メキシコ	2	2			

受入担当： 梅崎 裕
 コーディネーター： 大川 俊一

昭和56年度 個別特設工業港開発

研修期間 昭和57年2月4日～昭和57年3月20日

研修員 Mr. Juan Alberto Pavarini (アルゼンティン(別添リスト))他6名

研修機関 運輸省港湾局建設課国際協力室(580-3111(内2659))

補佐官 川 島 毅

専門官 村 田 進

事務官 真 中 弘 道

研修委託先 財団法人 国際臨海開発研究センター

調査役 林 清 雄

宿 舎 講 義 場 所 東京インターナショナルセンター

航空代理店 国際交流サービス協会 野口氏(580-1621)

研修監理員 大 川 俊 一

昭和56年度 第2回工業港開発技術コース・プログラム

昭和57年2月4日～3月20日

月日	曜日	時 間	日 程	講 師 等	職 名	研 修 場 所
2/5	月	10:00～12:00 13:30～16:00	MOTオリエンテーション/演習問題提出 日本の港湾の概要	村田 進	国際協力室専門官	TIC
1/6	火	10:00～12:00 13:30～16:00	工業港の開発効果 報告及び討論(1)	西田 幸男 戸嶋 英樹	国際協力室長 開発課補佐官	"
1/7	水	10:00～16:00	地域開発論	今野 修平	福井医科大学教授	"
1/8	木	10:00～16:00	報告及び討論(2)		(財)国際工業港開発研究センター 運輸省港湾局	"
1/9	金		川崎港見学			川崎市
2/0	土		レポート作成			TIC
2/1	日		Free			
2/2	月	10:00～12:00 13:30～16:00	工業港開発の手順 工業港開発規模の決定方法	栢原 英郎	(財)国際工業港開発研究センター 主任研究員	
2/3	火	10:00～16:00	臨海性工業の規模とレイアウトの方法	真野 博司	(株)建築立地研究所代表取締役	
2/4	水	10:00～12:00 13:30～16:00	工業港の空間利用計画の手法 工業港の施設計画の技術		OCDI/計画課 計 画 課	
2/5	木	10:00～16:00	工業港計画の演習(1)		OCDI/開発課/計画課	
2/6	金	10:00～12:00 13:30～16:00	工業港整備の実施及び管理運営 大規模防波堤の設計と施工	橋川 隆 高畑 泰雄	(財)国際工業港開発研究センター 主任研究員 港湾調査設計事務所建設専門官	
2/7	土		レポート作成			
2/8	日		Free			

月日	曜日	時間	日	程	講師等	機関名	研修場所
3/1	月	10:00 ~ 16:00		工業港計画の演習(2)		OCDL/開発課/計画課/国協室	
2	火	10:00 ~ 12:00 13:30 ~ 16:00		シーバースの設計と施工 工業港の環境問題	上田 茂	港研海洋構造研究室 環境整備課	
3	水			東京 → 大阪移動			
4	木			大阪南港・堺泉北港見学			大阪港
5	金			背後地見学			
6	土			大阪 → 東京移動			
7	日			Free			
8	月			予備日			
9	火			東京 → 鹿島移動			
10	水	13:30 ~ 16:00 10:00 ~ 12:00 13:30 ~ 16:00		鹿島港の概要 鹿島開発の経緯 鹿島港見学	岸 正平 飯島 柳多	鹿島港工務事務所所長 茨城県鹿島建設局 鹿島建設課副参事	鹿島港
11	木	10:00 ~ 12:00 13:30 ~ 16:00		鹿島港主要施設の設計 製鉄所・製油所・発電所見学	新行内 博幸	横浜建設計事務所施設専門官	
12	金	10:00 ~ 16:00		鹿島港の加工	岸 正平	鹿島港工務事務所所長	
13	土			鹿島 → 東京移動			
14	日			Free			
15	月			港研技術研究所見学			港 研
16	火	10:00 ~ 16:00		工業港計画の演習解答		OCDL/開発課/計画課/国協室	
17	水	10:00 ~ 12:00		特別講義	竹内 良夫	(財)国協港湾研究センター 理事長	TIC
18	木			運輸省表敬及び幹部との意見交換	小野寺 峻一	技術参事官	MOT
19	金			エバリュエーション/閉講式			
20	土			帰国準備			
21	日			帰 国			

建-1	コース名：建設機械整備	定員 10名
-----	-------------	-----------

受入期間： 56. 5. 7 ~ 56. 8. 3

関係省庁： 建設省大臣官房建設機械課

受入機関： (社) 日本建設機械化協会

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
トルコ	1	1			
スリランカ	1	1			
パプアニューギニア	2	2			
タイ	2	2			
フィリピン	2	2			
インドネシア	1	1			
マレーシア	2	2			
ビルマ	0	0			
アルジェリア	0	0			
ケニア	0	0			
マラウイ	0	0			
タンザニア	1	0			
ヴェネズエラ	0	0			

受入担当： 稲葉 誠

コーディネーター： 市川 康行

56年度 建設機械整備コース Evaluation 報告書

研1. 稲葉

日時：昭和56年7月30日 15:30～17:30

場所：TIC レクチャー1

参加者：○建設機械整備コース研修員

○渡辺専門官（建設省）

○内田保之（日本建設機械IC協会調査部長）

○志村市郎（マルマ重車両常務取締役）

○二宮嘉弘（鹿島建設技師長）

○甲一成（小松製作所）

○塚本健示（キャタピラー三菱）

○大久保、北林、稲葉（JICA研修1課）

○高畑（大阪センター）

○市川（研修監理員）（敬称略）

進行：本 Evaluation は先に研修員に Final Report を作成させると共に別添の用紙を配布し、当日別添の項目について質問すると共にそれに関する事について自由発言を求めた。又、受入れ先側からも研修員に対する質問を求め、最後に討論を行なった。

発言の要約（番号は別添の項目に対応）

I 1. 研修期間の長さ

2. 講義、見学、研修旅行等の配分について

○3ヶ月は本当の研修という意味においては短かすぎるが、見学という事では長すぎる。

○プログラムをもっと簡易化すればもう少し短かくできる。視聴覚教材を使用すればもっと効率よくなると思う。

○適当であったが、原理に主体を置いてもらいたかった。

○適当であったが、小松製作所での研修を長くしてほしい。

○充分であった。工場見学については考慮すべきである。

○研修の適切な長さというのは難しい問題で、主題によって変化すると思われる。その意味で研修員にとって共通の主題を決めるのが問題である。

○通訳するのに時間がかかっている。その他ロスが多い。

○時間が少なく講義が充分でなかった。

○期間は短かいと思う。

II 講義について

1. 研修課目 2. 明確さ 3. 教材 4. その他希望される課目

○小松での研修、講義及び実習はとても良かったが期間が短かったので充分でなかった。英語についてももっと考慮してほしい。

- 研修監理員にこの分野での background がないので通訳が充分でなかった。視聴覚教材をもっと使った方が良かった。
- 「機械整備」の実際での場面の講義をしてほしい。
- もっと原理について説明してほしい。通訳するのに時間がかかり、監理員に Back groundがないので不十分であった。“Management” についての課題も入れてほしい。
- 視聴覚教材を使えば理解度も深まると思う。
“Undercarriage” についてもっと知りたい。
- 多くの事を短時間でやりすぎる。この分野での経験のある人に通訳してほしい。
- 概して良かったが、もっと整備についての基礎的理論について講義してほしい。又、電気系統の事について知りたかった。
- 講義の時間が短かい上に多くの事をやりすぎる。通訳に問題があった。
- 講義は適当であったと思う。hydraulic system, electric system についてもっと知りたい。

Ⅲ 見 学 1. 見学について 2. 他に希望する見学

Ⅳ 実 習 1. 実習について 2. 他に希望する実習

- 研修旅行は工事がほとんど終わっていて、あまり見るべきものがなく、Sightseeing であった。小松での研修をのばしてほしい。
- 工場見学は製品見学ではなくて整備をしている所をもっと良く見たい。整備工場での問題点について良く知りたかった。実習時間をもっとふやしてほしい。又、修理工場等を現場としてもっと良く見たい。
- 工場見学のほとんどは同じ様であった。もっと選択して特色のあるものを見たい。一般的な事ではなくて整備について新しい原理を知りたかった。
- 見学の一部はカットすべきだ。大型機械や最新の機械も良いが途上国によく見られる身の回りの機械についてもっと良く知りたかった。研修旅行は工事が終わっていて得る所がなかった。
- 見学は講義内容と関連しているべきである。工場は選択した方が良く、立地、内容等を考慮して決定すべきである。
基本線を造り時間があればその他の見学も行うという様にすべきだ。
- 機械を製品として見せるだけでなく、整備技術について良く知らせてほしい。
- 講義や見学に関係のある実習をしてほしい。
- 見学をふやしてほしい。
- 見学現場で機械の前で整備について説明してほしい。

V G. I について

1. 米日前に G. I. を読んだかどうか。
 2. G. I. についての Comments
- Malaysia の 1 名, Turkey の研修員, G. I. を読まず。その理由として上司はその様な事を一言

も言わなかったとの事。又、他の研修員もofficeでちらっと見ただけという者もいた。

- G. I. にもっと明確にこのコースの Subject について書くべきである。又、G. I. によってもっと研修員の質をそろえるべきである。
- G. I. は上司に呼ばれた時に少し見ただけであり、内容についてほとんど記憶していない。
- 理論の方が良い研修員と実習が多い方が良いという研修員、見学の方が良い研修員等に分かれてしまい、その事が興味を分散させたと思う。その意味で、G. I. に内容について、実習主体とかを明記した方が良い。

VI カントリーレポートについて

1. 来日前にカントリーレポートを作ったか
 2. カントリーレポートの討論
 3. カントリーレポートについての感想及び提案
- 来日時にカントリーレポートを作成していたのは11人中5名であり、前項のG. I. を読んだにもかかわらずカントリーレポートを作成しなかった。その理由として、時間がなかったというのと共に、G. I. にその事が書かれている事に気がつかなかった。あるいは上司がその事にふれなかった等があった。
 - カントリーレポートは有意義であり、他の国の事情も判り興味深かった。
 - カントリーレポートは興味深かった。ただテーマを2～3個にしぼってその点に対する討論にしたらどうか。
 - カントリーレポートはもっと中身のあるものがほしい。
 - カントリーレポートで他の国の事情が知れて良かった。又、他の研修員と仲間意識を持てる様になるので良い。
 - カントリーレポートにはさほど興味を示さない。ある意味で時間のムダではないか。発表するだけであまり中身が無かったのではないか。

VII 生活状況

VIII 一時的な印象

IX 総括

この3項について意見があれば発言してもらった。

- 全体的に良かったが、コースの最初に少しでも日本語の勉強をさせてほしかった。
- 言葉の問題以外には大した問題もなかった。
- Subject を明確にするとともに、それに合った研修員のみを集めた方が良い。その事が運営にもプラスになるだろうし、又、研修期間の問題にも関係してくる。
- 全体的に満足している。建設省、受け入れ先及びJICAのスタッフに感謝している。

所 感

この Evaluation Meeting を始める前、およびこのコースの時ある毎に研修員に対して、改善点があればどしどし言ってくれる様に言っていたし、又、Meeting の直前にも、おせじや感謝の言葉は言つてほしくなく、必要なのは研修員からのきびしい意見である。と強調していたので、この Evaluation meeting ではかなりフランクな意見、それも不平不満でなく、将来のこのコースのための意見が聞けた様な気がする。meeting の直前および後の研修員との談笑及び Final Report などでも研修員がこのコースを評価している事がうかがえる事よりからも、研修員がまじめに Evaluation meeting に参加してくれたと考えられる。研修員の質及び興味を統一する事及び講義と実習、見学との時間配分、そして工場見学の際の見学地の選択等、考慮すべき点は多いと考えられる。その反面、受け入れ先の善意が伝わらないばかりか、逆に受け取られている場面も見られ、日本側としてその善意が判るので多少腹立たしさもあるが、その点においては日本側、受け入れ側の真意及び目的についてアピールする必要がある。一方この Evaluation Meeting で反省すべき点として、せつかく受け入れ側に参加してもらつたのにそちらからの意見および研修員に対する質問がほとんど出なかつた点がある。

多分、Evaluation Meeting の進行の方法に問題があつたと考えられるが、しかし、研修員の意見を通訳していると問のびするおそれもある。Meeting では質問項目の用紙をそれぞれに配布しているが、研修員の言っている事についていけなかつた事が最大の原因であると思われる。又、この Meeting の目的及び進行方法について、くわしく説明しておくが、受け入れ側より前もつて研修員に何を聞きたいかについて聞いておいた方が良くと思われる。(事前に聞いていたが、質問は無かつた。)

研修員との Evaluation meeting についてはある程度の意見は聞けたと思われるが、受け入れ側を交えてもう一步つっこんだ Meeting、及び Evaluation を通じて、研修員側がこちらの意見を理解すると共に、自分自身がこのコースの内での自分を evaluate し、自国に戻つてから何らかの指針となるという様な Meeting を行なうべきと考える。

1. 総 説

(1) 沿 革

本研修コースは建設機械コースとして昭和48年度に開設され、昨年度より建設機械整備コースと改められ今回は通算第9回目である。第1回目は広く建設関係技術者を対象として土木、機械の両分野に跨って6か月に亘り実施されたが、第2回目の昭和49年度より機械技術者のみを対象とするコースに改められ、土木の分野については昭和51年度より建設施工コースが設けられている。

(2) コースの目的

本コースの目的は、研修参加者に対し、講義・実習・討議・及び見学を通じて建設機械の修理、維持並びに整備工場の計画運営についての知識を紹介することである。

(3) 研修員選考の経緯

募集要項の送付国は13ヶ国で、その応募状況と併せ一表としてあるが、受入不可となった応募者氏名及び受入不可理由は下記の通りである。

Mr. Emanuel Masanche (タンザニア) 28才

ワナンチ建設機械会社 機械技師

受入不可理由：メ切日をかなり遅れての応募であり、かつ、同コースはすでに定員を充足していた。

表 1. 国別応募状況及び受入状況一覧

要項送付国	応募状況	受入状況
フ イ リ ビ ン	2	2
ビ ル マ	0	0
ス リ ラ ン カ	1	1
パ プ ア ニ ュ ー ギ ニ ア	2	2
ア ル ジ ェ リ ア	0	0
ト ル コ	1	1
タ イ	2	2
マ ラ ウ イ	0	0
イ ン ド ネ シ ア	1	1
ケ ニ ア	0	0
マ レ イ シ ア	2	2
ベ ネ ズ エ ラ	0	0
タ ン ザ ニ ア	1	0
合 計	12	11

(4) 研修の概要

I 講義内容

- ① 日本の建設機械の現状
(生産機種、台数、保有形態、技術的傾向など)
- ② 建設機械施工計画
(工事種別、工事量と適用機種、台数、組合せなど)
- ③ 建設機械の施工能力算定
(機種、規格、現場条件による施工能力の相異)

- ④ 建設機械の運営管理
(購入計画、稼働率、記録、維持保管など)
- ⑤ 建設工事の施工管理
(PERT、CPMなど)
- ⑥ 建設機械の経費
(機械経費の構成要素と調査方法、算定方法など)
- ⑦ 建設機械整備概論
(ダウンタイム、点検整備の種類と実施方法など)
- ⑧ 建設機械整備工場の計画と運営
(施設、人員、部品管理、工具管理、検査など)

II 整備基礎実習(各パーツの構造と整備実習)

- ① 内燃機関
- ② 動力伝達系(クラッチ、トルコン、ミッションなど)
- ③ シャン、フレーム
- ④ 油圧機器
- ⑤ タイヤ、ワイヤロープ、バッテリー、油脂類など

III 機種別実習(各機種の構造と整備上の留意点)

- ① ブルドーザ、スクレーバ、グレーダ
- ② ホイールローダ
- ③ パワーショベル
- ④ ダンプトラック
- ⑤ アスファルトフィニッシャ
- ⑥ アスファルト、コンクリートプラント
- ⑦ クレーン、ハンマ

2 研修員最終報告書要約

各設問は次のとおりである。

- ① 研修内容が良かったと思われる研修項目
- ② 改善すべき点、気のついた点
- ③ 帰国後計画していること
- ④ 今後JICAに望むこと
- ⑤ 日本についての印象

(1) Mr. Wacharin Chaiwiwatmonkol (タイ)

- ① マルマ重車輛工場、小松総合研修所、東洋運搬機
- ② TICでの講義には、もっと時間が必要で大量の事を一時にやりすぎる。
小松での研修には3週間ぐらいほしい。
見学先についてはアレンジに少し考慮が必要。
- ③ 新しい機材を購入し、修理工場建設の計画及び修理工の育成をはかりたい。
自分のいる事業部にTraining Centerをたてて十分な教材、教官をそろえて修理工の育成ができれば良いと思う。
- ④ このコースを継続し、タイからもより多くの人を参加させてほしい。
Oil analysisについての新しい技術知識が得たい。
- ⑤ 日本には大学が多く、皆高い教育を受けている。
日本人は協調性に富み、規律正しく、責任感が強く、時間に正確であるが、宗教心はあまりもってない様だ。
アメリカ的な生活様式、思考形態をとろうとしている。

(2) Mr. Manuel A. De Leon (フィリピン)

- ① 建設機械展示会
- ② 実習を研修全体の50～60%になる様にしてほしい。

なるべくすべての講義は英語で行なってほしい。

JICAはこのfieldに経験のある通訳をつけてほしい。

研修旅行では現在進行中の現場を見せてほしかった。

- ③ 日本で得た知識等をもとにして、自分の属する職場でその発展のために助言、あるいは要求をしてゆきたい。
- ④ このコースを継続し、より多くの研修員を受け入れてほしい。
- ⑤ 日本はとても発達した国で、物質的に満たされており、とても平和的である。
すべてが機能的に行なわれムダがなく、すべてが簡易ですばらしい。
いつの日か自分の国が日本の様になる事を望んでいる。

(3) Mr. Abraham S. Divina, Jr. (フィリピン)

- ① 小松総合研修所。一般的に良かった。
- ② このコースは技術を得るには短かすぎ、見学というのには長すぎる。
TICで行なわれた講義で講師が各企業から来ている場合、後でその企業の工場に行った場合同じ講義をされる事があった。
このコースを機械整備主体のコースとするならば、適当な期間小松などの研修所で研修を行い、週末あるいは最後の2週間程を研修旅行にあてたらどうか。移動が多すぎる。
- ③ 日本で得た知識を職場に紹介したい。
- ④ 建設機械及びその整備に関する本を送ってほしい。
現在、自分の職場ではArea Shopを建設中であるが、可能ならば小松にあった様なtoolや機材をそろえてほしい。
- ⑤ 東京は巨大でありすべてのものが手に入るが生活費が高い。
日本ではあいさつの時、敬意を表わす時に互いにおじぎをするが、その礼儀正しさに驚いた。

(4) Mr. Muhammad Lutfi Ismail (インドネシア)

- ① 施工管理、小松総合研修所、東洋運搬機

- ② 研修を45%の講義、35%の実習、20%の見学としたらどうか。
通訳をとおしての講義では時間がそれにかかりすぎた。
講義、実習、見学はアレンジをうまくする事で簡素化できる。
見学先が、このコースのスケジュール、目的、研修生のバックグラウンドをよく知っているると重複なく、より効果的になると思う。
- ③ 日本で得た知識を職場で他の人にも伝えたい。
日本の teaching technique を自国で試みたい。
- ④ 建設機械に関する最新の情報を送ってほしい。
- ⑤ 日本は急速な経済成長をとげ、それにより高い生活レベルに達した。
日本人はとても親切で勤勉であり、規律正しく、人と協調して物事を進めていく。
現在日本は近代的で世界的な工業国の一つである。

(5) Mr. Husin Bin Ahmat (マレーシア)

- ① 小松総合研究所、東洋運搬機
- ② 講義と見学、実習は交互に行い、それぞれ関連性をもたせた方が良い。
通訳にはこのフィールドでの経験が欲しい。
小松での期間を長くしてほしい。
研修前に日本語の講座をうけさせてほしい。
日本語の参考書、text はさけてほしい。
- ③ ほとんどの機械は我国に導入されているが、モデルチェンジがとても早い。日本で得た知識はとても有意義であったのでこれを他の職員および訓練所の学生に伝えたい。
- ④ 建設機械及び技術についての技術雑誌等を送ってほしい。
- ⑤ 日本は世界で最も進んだ国の一つである。
日本人はとても親切で礼儀正しく規律正しい。
“時は金なり”という合言葉により、日本人は勤勉で協調性に富み、日本を強い国にしている。

(6) Mr. Cemil Özyurt (トルコ)

- ① 小松総合研修所、建設機械展示会、東洋運搬機、マルマ重車輛工場
- ② 全般的に良かったがプログラムを講義50%、実習50%の割合にしたらより効果的でないか。
- ③ 日本で得た知識を職場で生かしたい。
- ④ 建設機械の管理方法についての情報をJICAに求めるかもしれない。
- ⑤ 日本はその多くを山と林でおおわれているが、日本人は近代的な方法でもって国土を有効利用している。
3ヶ月の間に日本のすばらしい技術に接する事ができ、技術者の1人としてうれしく思っている。

(7) Mr. Matara Achchige Wimal (スリランカ)

- ① 溶接、小松総合研修所、日立建機
- ② 時間的に余裕がなく、とてもタイトであった。研修期間を長くするか、あるいは内容的に少し余裕をみた方が良い。
- ③ 日本で得た事を自分の言葉になおした上で自分のスタッフに伝えたい。
又、日本での知識を自分の日常の仕事にも生かせると思う。
- ④ このフィールドでの教育機材等を送ってほしい。
- ⑤ 日本は短期間に急速な成長をとげた。日本社会はとても平和的で友好的であり、誠実である。
このような状況は私の知る限り世界に他に例をみないと思う。

(8) Mr. Maki Soikava (バブア・ニューギニア)

- ① マルマ重車輛工場、建設機械展示会、機械化研究所、山崎建設工場、小松総合研修所、東洋運搬機、土木研究所
- ② “Maintenance of Construction Machinery”
というタイトルは少しまぎらわしく、このコースは実習が主体であるか否かについて簡単な内容説明をG. Iに書いてほしい。

小松やキャタピラー三菱での実習を長くしてほしい。

途上国でもなじみのある機械及びその整備について見学する機会をつくってほしい。

英語に通訳するのに手間がかかるので視聴覚教材をもっと使ってほしい。

研修員全員共通のこのファイナルレポートの他に各人に対して簡単なレポートを提出させれば研修員1人1人について判るのではないか。

- ③ 日本で得た知識、技術を職場で伝えたい。
- ④ 視聴覚教材（フィルム）がほしい。
- ⑤ 見るもの経験するものすべてが信じられない。

日本という国は先進国の中でも、特に注目し、又、注目し続けていかねばならない国である。

(9) Mr. Peerapol Panyim (タイ)

- ① オリエンテーション、カントリーレポート 講義は全般的に有益であった。
- ② 実習が少なかった。工場見学等でも機械のデモンストレーションだけでなく整備技術についての実際の場合の説明がほしかった。
研修旅行は工事がほとんど終わっていて見るものが少なく、又、機械の前での説明もなかったのは残念である。
工場見学については数をしぼりアレンジを良くしてほしい。
途上国では一般に Officer は運営管理に対する needs も高いのでこれの講義も多くしてほしい。
- ③ この研修で得た text やその他の情報のすべてを自分の職場、仕事に生かしたい。
- ④ この研修コースを長く続けていくとともに、自分の職場からも継続的に人を参加させてほしい。継続的に新しい情報を送ってほしい。
- ⑤ 日本はとても発展した国で、3ヶ月の滞日はとても便利であった。

日本人はとても好意的で何か問題のあった時は皆が全力で助けてくれた。皆、誠実で勤勉であり感銘を受けた。

この研修に関係した人々は常に全力をつくしてくれた。

(10) Mr. Huad Bin Abas (マレーシア)

① 全般的に良かった。

② 通訳にはそのフィールドでの経験が必要である。

講義の続く時には、その中間に日帰りの見学を入れれば良い。

時間割に工夫が必要である。改良すれば期間が短縮できる。

工場見学はやはり男性監理員の方が良い。

長い旅行は互いに隣接した日にはしない方が良い。

③ 日本で得た知識は自分の教える生徒にとってとても有益である。

④ 現時点では無し。

⑤ 日本人は一般に誠実でていねいで、奉仕的で、規律正しく、これらが日本が急速に発展した理由だと思う。

このことから日本は自らを欧米の一員とみなし、考え方、生活様式もそうなっている。

印象的だったのは企業の適切なマネジメントと労働者の企業への奉仕であった。工場内は清潔で又、安全性に気が配られており、合理的な荷物の移動設備がととのっていた。

3. 研修実施機関・講師（敬称略）

〔研修指導機関〕

- ・ 建設省大臣官房建設機械課 課長 中野俊次
専門官 本田宜史
- ・ 建設省計画局国際課 課長 三谷浩
課長補佐 小笠原憲一

〒100 東京都千代田区霞ヶ関2-1-3

(電) 03-580-4311

- ・ 建設省近畿地方建設局道路部機械課 課長 谷口 肇

〒540 大阪市東区大手前之町 合同庁舎1号

(電) 06-942-1141

- ・ 社団法人日本建設機械化協会

〒105 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館

(電) 03-433-1501

〔研修実施機関〕

マルマ重車輛(株)

東京都世田谷区桜丘1-2-19

建設機械化研究所

静岡県富士市大淵3154

山崎建設(株)

東京都中央区日本橋小舟町10-9

小松製作所(株) 総合研修所

静岡県田方郡大仁町浮橋1601-1

キャタピラー三菱(株)秩父センター

埼玉県秩父市大字山田字芳の沢2848

東洋運搬機(株)竜ヶ崎製造事業部研修所

茨城県竜ヶ崎市3番

建設省土木研究所

茨城県筑波郡豊里町大字旭1番

日立建機(株)土浦工場

茨城県土浦市神立町650

いすゞ自動車(株)

東京都品川区南大井6-22-10

三菱重工業(株)明石製作所

兵庫県明石市魚住町清水1106-4

日工(株)

明石市大久保町江井島1013-1

(株)神戸製鋼所建設機械事業部大久保事業所教習所

兵庫県明石市大久保町福田123

雇用促進事業団 職業訓練大学校

神奈川県相模原市相原1960

(株)東洋内燃機工業社

神奈川県川崎市高津区长尾東高根738

本州四国連絡橋公団第一建設局鳴門工事事務所

徳島県鳴門市鳴門町土佐泊浦宅大毛143

建設省四国地方建設局高知工事事務所

高知県高知市六泉寺町96-7

水資源開発公団一庫ダム建設所

兵庫県川西市向陽台1-2

(講師名簿)

建設省大臣官房建設機械課専門官	本	田	宜	史
建設省土木研究所施工研究室研究員	見	波		潔
建設省土木研究所機械研究室主任研究員	太	田		宏
鹿島建設(株)技師長	二	宮	嘉	弘
小松製作所(株)営業本部部品部長	橋	本	元	博
建設機械評論家	甲	斐		安
日立建機(株)土浦工場検査部副技師長	小	岩	正	一
日立建機(株)土浦工場検査部主任	小	倉	幸	夫
神戸製鋼所(株)建設機械教習所所長	溝	畑	喜	由
トデック(株)代表取締役	佐	藤	裕	俊
建設省土木研究所機械研究室室長	沢	田	茂	良
マルマ重車輛(株)第2営業部課長	本	郷	忠	宏
東洋ゴム工業(株)タイヤ商品保証部課長	高	見	義	明
京都大学工学部土木工学研究室教授	吉	川	和	広
キャタピラー三菱(株)サービス教育課	桜	井		強

4. 参考資料

研修員受入実績

表2. 建設機械コース国別年度別受入実績

年 度 国 名	48	49	50	51	52	53	54	55	56	合 計
バングラデッシュ		1								1
ビ ル マ						1		1		2
イ ン ド		1	1	1	1					4
インドネシア	1	1	1	1	2	1	1	1	1	10
大 韓 民 国		1								1
マレーシア	1			1					2	4
フィリピン	1	1	1	2	1	1			2	9
シンガポール	1		1				1			3
タ イ					2	1	2	1	2	8
ベ ト ナ ム	1									1
イ ラ ン			1			2		1		4
イ ラ ク				1	1	1	1	1		5
トルコ					1	1		1	1	4
サウジアラビア				1						1
ガ ー ナ	1		1							2
ケ ニ ア	1		1	1	1	1	1	1		7
マダガスカル					1					1
ナイジェリア		1	1	1						3
タンザニア				1	1		1	1		4
アルゼンチン	1	1	1		1		1			5
ボリヴィア	1	1	1	1		1				5
ブラジル	1	1					1	1		4
パ ナ マ	1	1								2
パプア・ニューギニア						2	1	2	2	7
スリランカ									1	1
25カ国 合計	11	10	10	11	12	12	10	11	11	98

昭和56年度建設機械整備コース研修日程

月日	曜	内 容	講 師	場 所	月 日	曜	内 容	講 師	場 所
5/7	木	来 日			5/30	土			
8	金	JICA プリーファイニング	T I C	T I C	(31)	日			
9	土	—	—	—	6/1	月	整備工場の運営管理	本 郷 忠 宏	T I C
(10)	日	—	—	—	2	火	整備工場見学	マルマ重車輻	東 京
11	月	JICA オリエンテーション	J I C A	T I C	3	水	建設機械展示会見学	建設機械化研究所	"
12	火	"	"	"	4	木	建設機械化研究所見学	山 崎 建 設	静 岡 (富士)
13	水	"	"	"	5	金	整備工場見学	山 崎 建 設	静 岡 (浜松)
14	木	"	"	"	6	土	—	—	—
15	金	"	"	"	(7)	日	—	—	—
16	土	—	—	—	8	月	基 礎 演 習	小 公 研 修 所	静 岡 (大仁)
(17)	日	—	—	—	9	火	"	"	"
18	月	建設省表敬	建 設 省	T I C	10	水	"	"	"
19	火	カントリーレポート	建設省、JICA	"	11	木	"	"	"
20	水	日本の建設機械の現状	本 田 直 史	"	12	金	"	"	"
21	木	建設機械施工計画、施工能力算定	見 渡 潔、太 田 宏	"	13	土	—	—	—
22	金	建設機械整備概論	二 宮 源 弘	"	(14)	日	—	—	—
23	土	—	—	—	15	月	"	"	"
(24)	日	—	—	—	16	火	"	"	"
25	月	部品管理、日本における建設機械整備の現状と問題点	橋 本 元 博、甲 斐 安	T I C	17	水	"	"	"
26	火	欠陥検査、建設機械用工業材料	小 倉 孝 夫、小 岩 正 一	"	18	木	"	"	"
27	水	接 接	藤 畑 孝 山	"	19	金	"	"	"
28	木	建設機械加工能力算定、建設機械の経費	太 川 宏、佐 藤 啓 彦	"	20	土	移動 (静岡→埼玉)	—	—
29	金	建設機械の運営管理	沢 山 茂 良	"	(21)	日	—	—	—

月 日 曜	内 容	講 師	場 所	月 日 曜	内 容	講 師	場 所	場 所	曜	内 容	講 師	場 所
6/22 月	機種実習(フルーバスクレーン)	キャタピラ三菱研究所	堀玉(秩父)	7/17 金	機種実習(クレーン、ハンママー)			明		神戸製鋼所	石	
23 火	"	"	"	18 土	研 修 旅 行(四国地方)					一		
24 水	"	"	"	(19) 日						一		
25 木	"	"	"	20 月						一		
26 金	"	"	"	21 火						"		
27 土	"	"	"	22 水						"		
(28) 日	"	"	"	23 木						"		
29 月	機種実習(ホイールローダ)	東洋運搬機	茨城(龍ヶ崎)	24 金	職業訓練学校見学			神 奈 川		一		
30 火	"	"	"	25 土						一		
7/1 水	土木研究所見学	土木研究所	茨城(筑波)	(26) 日						一		
2 木	機種実習(パワーショベル)	日立建機	茨城(土浦)	27 月	整備工場見学			東 京		一		
3 金	"	"	"	28 火	予 備 日							
4 土	"	"	"	29 水	報 告 書 作 成							
(5) 日	"	"	"	30 木	エグゼクティブエージェンシー、閉講式			T I C				
6 月	機種実習(ダンプトラック)	いすゞ自動車	神奈川(川崎)	31 金	帰 国 準 備			"				
7 火	"	"	"	8/1 土				"				
8 水	移動(川崎→大阪)	"	"	(2) 日				"				
9 木	建設機械のタイヤ	高見義明	O I T C	3 月				"				
10 金	電装品、潤滑油	板井 強	"					"				
11 土	"	"	"					"				
(12) 日	"	"	"					"				
13 月	施工管理	吉川和広	O I T C					"				
14 火	"	"	"					"				
15 水	機種実習(アスファルトフィニッシャー)	三菱重工	明 石					"				
16 木	機種実習(アスファルトエンリッチャント)	日 工	明 石					"				

EVALUATION MEETING ON GROUP TRAINING COURSE
OF
MAINTENANCE OF CONSTRUCTION MACHINERY

You are kindly requested to present a FINAL REPORT in the designated form to JICA at the evaluation meeting. At the meeting, you are requested to express your frank opinions about this course.

Your frank opinions will be highly appreciated for further improvement of this course.

So please feel free to present your opinions on this course. Some items to be reviewed are follows:

1. Programs:

1. Duration of the course: too long, reasonable, too short.
2. Time allocation for lectures, observations, trips and others.

11. Lectures:

1. Subjects and Topics: e.g. *very important / useful to you
*less important / useful
2. Clarity of Lectures.
3. Teaching aids, used materials and facilities.
4. Any subject proposed to be added.

111. Observation:

1. Observation: *very interesting / useful to you
*less interesting / useful
2. Any other observation to be desired in this course.

1V. Practices:

1. Practices: *very interesting / useful to you
*less interesting / useful
2. Any other practice to be desired in this course.

V. General Information (G.I.):

1. Whether you read G.I. prior to arrival.
2. Any comments on G.I.

VI. Country Report:

1. Presentation of Country Report *Whether you prepared Country Report prior to arrival.
2. Discussion of individual Country Report *very interesting / useful to you
*less interesting / useful
3. Any other comment or suggestion regarding Country Report.

VII. Living conditions:

1. Preparation before coming to Japan.
2. Orientation at TIC.
3. Accommodation, Food, Amenities, etc.

VIII. General Impression:

1. The most serious problems during your stay in Japan.
2. Your idea of Japan before you came to Japan and after.

IX. Overall evaluation:

1. Any other suggestion for further improvement of this course.
2. In conclusion, how did you find this course in overall?

建-2	コース名：測量技術	定員 10名
-----	-----------	-----------

受入期間：56.6.11～56.12.11

関係省庁：建設省国土地理院

受入機関：筑波インターナショナルセンター

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
ビルマ	1	1			
インドネシア	2	1			
フィリピン	2	0			
中国	1	1			
フィジー	1	0			
ジョルダン	1	1			
サウジアラビア	0	0			
スーダン	1	1			
ギニア	1	1			
ケニア	1	1			
リベリア	1	0			
タンザニア	2	1			
コスタリカ	1	1			
パナマ	1	1			

受入担当：村上博（本部），篠塚征和（筑波インターナショナルセンター）

コーディネーター：岡本優子

測 量 技 術 コ ー ス

本年度は写真測量に関する研修を実施した。従来定員6名であったが今年度から10名(実際は11名受入れ)としたため、運営上の面で危惧されたが、研修員のレベルも高く、円滑に実施された。

当コースは、今まで研修監理員を媒介として殆どどの講義が行なわれて来たが、本年度は外部講師を導入することにより直接英語による講義数の増加に努めた。

◎今後の問題

当コースは18年の歴史があり、地図印刷、写真測量及び測地測量に区分し、3年ローテーションで実施している。

しかしながらテキストブックの未整備が顕著であるため、今後この点に力を注ぐ必要がある。

また当コースの研修期間は画一的に6ヶ月であったが、各コースの性格により、各研修期間を再検討する時期に来ていると思われる。

従って57年度測地測量コースは地理院と協議し、7ヶ月とし、カリキュラムの充実を図ることとした。

以 上

月日曜	午		前		後		月日曜	午		前		後	
	講	師	内	容	講	師		内	容	講	師	内	容
8/1土			休	日			9/1火	地形課国土基本図課	図	化	地形課国土基本図課	図	化
2日							2水	"	"	"	"	"	"
3月	外	佐々波	絶対測定		外	佐	波	接続	測定	"	"	"	"
4火	外	佐々波	空中三角測量		"	"	"	空中三角測量		"	"	"	"
5水	企	金子	航空カメラの構造		地	形	課	空中写真撮影		休	日		
6木	地	形	空中写真撮影		"	"	"	"		"	"		
7金			印刷会社及びカメラ工場見学				7月	地形課国土基本図課	図	化	地形課国土基本図課	図	化
8土			休	日			8火	"	"	"	"	"	"
9日			"				9水	"	"	"	"	"	"
10月	(企画部)			大	阪	大	阪東急イン		"	"	"	"
11火					(京	都)	ホテルリッチ京都		キ	ャ	ノ	ン
12水			関西地方旅行		(奈	良)			休	日		見
13木					神	戸	兵	庫センター		休	日		
14金							14月	地形課国土基本図課	図	化	地形課国土基本図課	図	化
15土			休	日			15火	"	"	"	"	"	"
16日			"				16水	地形課国土基本図課	図	化	地形課国土基本図課	図	化
17月	地	形	空中三角測量		地	形	課	空中三角測量		"	"	"	"
18火			"		"	"	18金	NEC(電算)	見	学			
19水			"		"	"	19土	休	日				
20木			"		"	"	20日	"	"	"	"	"	"
21金			"		"	"	21月	地形課国土基本図課	図	化	地形課国土基本図課	図	化
22土			休	日			22火	"	"	"	"	"	"
23日			"				23水	祭	日				
24月	地	形	空中三角測量		地	形	課	空中三角測量		電	磁	波	測
25火			"		"	"	25金	地	対	空	標	識	地
26水			"		"	"	26土	休	日				
27木			図式の説明		"	"	27日	"	"	"	"	"	"
28金			地質調査所見学		"	"	28月	地	形	課			
29土			休	日			29火	"	"	標	定	点	測
30日			"				30水	"	"	量	頭	地	実
31月	地	形	空中三角測量		地	形	課	空中三角測量		(足	利	地
			"							区)		

	前			後			日	前			後		
	講	師	容	講	師	容		講	師	容	講	師	容
10/1	木	地	標定點測量現地(足利地区)	地	實地	習	11/1	日	休	日	講	容	
2	金	"	休	"	"	"	2	月	地理一課	地理一課	地理一課	土地利用調査	
3	土	"	休	"	"	"	3	火	地理一課	地理一課	地理一課	土地利用図作成	
4	日	"	休	"	"	"	4	水	地理一課	地理一課	地理一課	土地利用図作成	
5	月	國土基本図課	大縮尺図	國土基本図課	大縮尺図	大縮尺図	5	木	"	"	"	"	
6	火	"	"()	外	リモートセンシング	リモートセンシング	6	金	地形課	地形課	地形課	編	
7	水	外	リモートセンシング	"	"	"	7	土	地形課	地形課	地形課	編	
8	木	写真開発室	"(英)	写真開発室	"(英)	"(英)	8	日	地形課	地形課	地形課	編	
9	金	林業試験場	休	休	休	休	9	月	地形課	地形課	地形課	編	
10	土	休	休	休	休	休	10	火	"	"	"	"	
11	日	休	休	休	休	休	11	水	"	現地調査実習	"	"	
12	月	写真開発室	衛星画像合成手法	写真開発室	衛星画像合成手法	衛星画像合成手法	12	木	"	"	現地調査実習	"	"
13	火	"	"	"	"	"	13	金	"	"	"	"	
14	水	"	"	外	大島	地上写真測量	14	土	地形課	地形課	地形課	編	
15	木	外	地上写真測量	"	"	"	15	日	地形課	地形課	地形課	編	
16	金	外	リモートセンシング技術センター及び警察庁見学	リモートセンシング技術センター及び警察庁見学	リモートセンシング技術センター及び警察庁見学	リモートセンシング技術センター及び警察庁見学	16	月	地形課	地形課	地形課	編	
17	土	休	休	休	休	休	17	火	"	"	"	"	
18	日	休	休	休	休	休	18	水	"	"	"	"	
19	月	地図情報室	数値情報	地図情報室	数値情報	数値情報	19	木	写真開発室	写真開発室	写真開発室	解析図	
20	火	地形課	写真判読	地形課	写真判読	写真判読	20	金	"	"	"	"	
21	水	"	"	地	地形課	編	21	土	"	休	地形課	編	
22	木	地形課	編	編	編	編	22	日	"	"	"	"	
23	金	"	"	"	"	"	23	月	"	祭	"	"	
24	土	休	休	休	休	休	24	火	写真開発課	写真開発課	写真開発室	解析図	
25	日	休	休	休	休	休	25	水	"	"	"	"	
26	月	地形課	現地調査	地形課	現地調査	現地調査	26	木	國土基本図課	國土基本図課	國土基本図課	写真	
27	火	"	"	"	"	"	27	金	"	"	"	"	
28	水	"	写真判読現地実習	写真判読現地実習	写真判読現地実習	写真判読現地実習	28	土	"	休	"	"	
29	木	"	(下仁田、妙義、澁間)	(下仁田、妙義、澁間)	(下仁田、妙義、澁間)	(下仁田、妙義、澁間)	29	日	"	"	"	"	
30	金	"	"	"	"	"	30	月	國土基本図課	國土基本図課	國土基本図課	写真	
31	土	休	休	休	休	休	31	日	"	"	"	"	

月日曜	午 前		午 後	
	講 師	内 容	講 師	内 容
12/1 火		鹿野山、房総見学		
2 水				
3 木	管 理 課	写真測量設計	校 査 課	写真測量精度管理
4 金	地 形 課	研修成果のまとめ	参 事 官	特 別 講 義
5 土		休 日		
6 日		"		
7 月		写真測量補講		写真測量補講
8 火		"		終了あいさつ
9 水		"		"
10 木		"	研 修 生	"
11 金		"	研 修 生	

建-3	コース名：河川工学	定員 10名
-----	-----------	-----------

受入期間： 56. 7. 23～56. 11. 30

関係省庁： 建設省河川局

受入機関： 社団法人 日本河川協会（経理委託）
筑波インターナショナルセンター

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
バングラデシュ	2	1			
インドネシア	2	1			
マレーシア	1	1			
ネパール	1	1			
フィリピン	2	1			
タイ	1	1			
中国	1	1			
エジプト	1	1			
イラク	0	0			
ガーナ	1	1			
ブラジル	1	1			
ホンデュラス	1	0			
ヴェネズエラ	0	0			

受入担当： 新垣和成（筑波インターナショナルセンター）、梅崎 裕（本部）

コーディネーター： 梅沢直臣、江崎秀隆

昭和56年度河川工学コース

研修期間 昭和56年7月23日～昭和56年11月30日

研修員 Mr. Md. Hasan Zubair(バングラデシュ)他10名

研修機関 建設省 河川局 河川計画課

課長補佐 竹村 公太郎

企画係長 栗城 稔

技 官 吉田 薫

建設省 土木研究所

企画部企画課

建設専門官 武藤 富雄

宿 舎 筑波インターナショナルセンター

担 当 筑波インターナショナルセンター

研 修 課 新垣 和成

研修監理員 財団法人 国際協力サービスセンター

梅 沢 直 臣

江 崎 秀 隆

河川工学研修日程表 (8月)

洪水予警報		河川改修		コース		データベース		備考	
月日	曜日	研修内容	講師名(所属)	研修場所	備考	研修内容	講師名(所属)	研修場所	備考
8/1	土	休日							
2	日	建設省オリエンテーション、表敬	竹村公太郎(河川計画課)	東京					
3	月	河川工学概論	土屋昭彦(日本建設コンサルタンツ)	"					
4	火	日本の河川	竹村公太郎(河川計画課)	"					
5	水	河川法	内田 要(水政課)	"	東京→筑波				
6	木	河川計画の基本	吉野文雄(土研、総合治水研)	筑波					
7	金	休日							
8	土	休日							
9	日	カンントリーレポート発表	須賀、吉野、榎辺、今村、水野、竹村、栗城	筑波					
10	月	"		"					
11	火	"		"					
12	水	特別講演	椎貝 (筑波大)	"					
13	木	水文観測	大倉 博(土研水文研)	"					
14	金	休日							
15	土	休日							
16	日	水文統計	寺川 陽(土研水文研)	筑波					
17	月	"		"					
18	火	"		"					
19	水	水文統計演習		"					
20	木	治水改修の歴史	虫明功臣(渠大、生産技術研)	東京	筑波→東京				
21	金	治水計画 Case Study	御坊田裕己(北海道帯広開建)	"					
22	土	休日							
23	日	見学旅行(北海道)		北海道					
24	月	"		"					
25	火	"		"					
26	水	"		"					
27	木	"		"					
28	金	"		"					
29	土	"		"					
30	日	休日							
31	月	流出計算法概論	木下武雄(防災センター)						

河川工学研修日程表 (9月)

月日	洪水予警報河川改修コース			ダムコース		
	研修内容	講師名(所属)	研修場所	研修内容	講師名(所属)	研修場所
9/1 火	タンクモデル	武田 宏(防災センター)	筑			
2 水	"	"	"			
3 木	タンクモデル法演習	"	"			
4 金	"	"	"			
5 土	休					
6 日	"					
7 月	貯留関数法	木村俊晃(日本システムリサーチ)	東			
8 火	"	"	"			
9 水	"	(土研・水文研)	"			
10 木	"	"	"			
11 金	"	"	"			
12 土	休					
13 日	"					
14 月	研修中間反省会	竹村公太郎他	東			
15 火	休					
16 水	洪水予報テレメータシステム	高山一彦(電気通信省)	京	ダムの計画から建設	大内(土研・水資源開発研)	京
17 木	"	山口 修(淀川統管)	東	日本のダム事業	坂本忠彦(開発課)	"
18 金	"	(")	"	ダムの施工(コンクリート)	高橋聖太郎(水公団試験所)	"
19 土	休			" (フィル)	前岡光明(水公団第一工務部)	
20 日	"			休		
21 月	流送土砂	山本晃一(土研・河川研)	筑	施工管理	荒井 修(東北・寒河江工事)	東
22 火	"	"	"	"		"
23 水	休			休		
24 木	河運の基本設計	須賀堯三(土研・河川研)	筑	ダムの設計(フィル)	松本義人(土研・フィルダム研)	筑
25 金	"	"	"	" (洪水吐)	宮井宏(土研・ダム水工研)	"
26 土	休			休		
27 日	"			"		
28 月	見学旅行(北陸)		北	見学旅行(北陸、関東)	上野→郡山→大川ダム	北陸
29 火	"		"	"	→下郷発電所→川治ダム	" 関東
30 水	"		"	"	→日光	"
31						

河川工学研修日程表 (10月)

月日	洪水予警報河川改修コース			ダムコース		
	研修内容	講師名(所属)	研修場所	研修内容	講師名(所属)	研修場所
10/1	見学旅行(北陸)		北	見学旅行	→草木ダム	関
2	"		"	"	→利根水管	"
3	"		"	"	→東京	"
4	休			共通		
5	気象学概論	三沢昌邦(気象庁)	東			
6	雨量の客観予報	宮園興康(気象庁)	"	ダムの設計(コンクリート)	水野光章(土研・ダム構造研)	筑
7	河川構造物の設計(堰)	高瀬祐男(水公団、技術管理室)	"		"	"
8	"	"	"	休日	"	"
9	休			休日		
10	"			地質調査	菅原 捷(土研・地質研究室)	筑
11	河川構造物の設計(堤防)	久米勝行(土研・土質研)	筑	基礎処理	柴田 功(土研・ダム部)	"
12	"	"	"	地すべり調査	吉松弘行(土研・地すべり研)	"
13	"	"	"	仮設備計画	竹林征三(開発課 補佐)	"
14	"	"	"	ダムの耐震設計	松本徳久(土研・フィラルダム研)	東
15	"	"	"	休日		京
16	休			休日		
17	"			ダム工学演習	土研ダム部各研究室	筑
18	河川工学演習	土研河川部各研究室	筑	"	"	"
19	"	"	"	"	"	"
20	"	"	"	"	"	"
21	"	"	"	"	"	"
22	"	"	"	"	"	"
23	"	"	"	"	"	"
24	休			休日		
25	"			"		
26	見学旅行(九州)		九	見学旅行(東北)		東
27	"		"	"		北
28	"		"	"		
29	"		"	"		
30	"		"	"		
31	"		"	"		

河川工学研修日程表 (11月)

曜日	研修内容	講師名(所属)	研修場所	備考	研修内容	講師名(所属)	研修場所	備考
11/1	休日							
2	特別講演							
3	休日							
4	河川管理施設等構造令	尾田栄章(治水課)	東京					
5	砂防概論	大久保駿(砂防課)	"					
6	砂防調査	牧野裕至(砂防課)	"					
7	休日							
8	"							
9	砂防施設計画設計	砂防研究室						
10	"	"						
11	"	"						
12	"	"						
13	"	"						
14	休日							
15	"							
16	見学旅行(近畿)							
17	"							
18	"							
19	"							
20	"							
21	"							
22	休日							
23	"							
24	ダム管理(operation)	今村瑞穂(土研・水資源開発研)	筑波					
25	環境アセスメント	貞包秀浩(河川計画課)	"					
26	水防工法	河計課長、竹村、栗城	"					
27	エバリュエーション・ディンク閉講式							
28	帰国準備							
29	"							
30	帰国							

建-4	コース名：洪水防御	定員 8名
-----	-----------	----------

受入期間：56.7.30～56.9.25

関係省庁：建設省河川局，土木研究所

受入機関：筑波インターナショナルセンター

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
バングラデシュ	2	1			
インド	1	1			
インドネシア	1	1			
大韓民国	1	1			
マレーシア	1	1			
ネパール	1	1			
パキスタン	1	1			
フィリピン	0	0			
タイ	1	1			
中国	1	1			

受入担当：新田節（本部），新垣和成（筑波インターナショナルセンター）

コーディネーター：野口晴代

東南アジア諸国における
洪水防禦パイロットスタディー

—1981年度洪水防禦コース報告書—

1982. 2. 10.

建設省河川局・土木研究所
国際協力事業団
筑波インターナショナルセンター

ま え が き

国連台風委員会の長期計画に基づく総合的な水害防禦技術（構造物のみでなく非構造物対応を含めたもの）に関する国際的な研修コースが設立されて1979年10月にその第1回研修が開かれたが、今回の第3回研修1981年8月から9月にかけて行われた。本レポートは第3回研修の報告である。

この第1回から第2回の間1980年1月から2月にかけて、台風委員会より総合的な水害防禦対策、特に非構造物対策の具体的説明とパイロット・スタディー河川の選定協力のために、アドバイザー・チームがタイ、マレーシア、フィリピン、中国、韓国に派遣された。各国のパイロット・スタディー河川の特徴、研究テーマ等についてのアドバイザー・チームの報告は、第2回研修報告書に全文収録された。

第3回研修では9ヶ国、9人が参加し、一般的な講義、現場見学とともに各国の河川のパイロット・スタディーを行った。研修員の国々は、西はパキスタンから東は韓国まで含まれていて、各国河川の置かれている状況は自然的にも社会的にも大きく異なっている。この状況のため、各国共通の対策は少なく、各国特有に対処されねばならない課題がほとんどである。共通としてあるのは治水対策を堤防・ダム等の構造物のみに絞るのではなく、土地利用、洪水予報等流域を含めて検討しようということである。研修の成果である研修員の報告も本レポートに含まれているが、研修員が所持してきた資料の状況にもより、その内容に大きな差があるのは仕方のないことであろう。しかし、若干でも各国の新らしい情報が含まれ、今後の各国の河川の認識について寄与するところがあると考えるので、ここにその報告を公表する次第である。

研修員報告

1 研修コース設立の背景

東南アジア各国において、総合的な水害防禦に関する技術開発の問題に関心が高くなったことについては、台風委員会の活動について述べるのが分り易いと思われる。

台風委員会は、今から約10年程前1968年に東南アジアの台風常襲地帯に位置する7ヶ国が集まって、台風の発生、進路の予測や、台風によってもたらされる被害の軽減を図るための研究や調査など情報交換を主体とする国際機構をつくり上げたことに端を発している。活動は年1回の委員会において、その年の各国の台風に関する諸活動を報告しあい、討議を通じ啓発するとともに地域的なセミナーなどの開催により国際的な活動を展開してきた。台風委員会への加盟国は1981年現在10ヶ国で次のような国で構成されている。香港、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ラオス、ベトナム、クメール、中国、日本。

1978年に委員会発足10年を迎え、これまでの委員会活動の成果を明らかにし、さらに台風に関する加盟国の抱えている問題点を把握し、今後の活動方針を探る意味で7ヶ国を訪問し問題点を討議するレビューミッションが企画され、実行された。

レビューミッションの報告書は、1978年10月の台風委員会に提出され了承されたが、この報告書では今後の台風委員会の活動テーマとして、特に水文部門の活動として、これまで10年間の洪水予備警報システムに関するめざましい発展をふまえ、構造物対応のみではない非構造物対応を加えた総合的な水害防禦対策を実施することの必要性が強調されている。

台風委員会は、この問題の重要性を認め、水文部門における今後の活動の重要な柱とすることとしたが、まず手はじめに各国それぞれ試験流域を設定し総合的な水害防禦の技術的な検討を始めることとした。河川改修や治水ダムの建設などいわゆるハードな治水対策は、各国での行政活動そのものであり、これらの問題まで組み込むことは、台風委員会の性格上あまり適当でないという判断があり非構造物の課題を中心とすることとし、また、代表流域で事例的に研究された手法は他の流域にも適用可能であり技術開発のやり易い方法として採択されたものと考えられる。

発展途上国に対する集団研修やセミナーの開催なども台風委員会活動の主要な柱であり、日本で従来から実施している河川工学コース研修も台風委員会の活動の一環である。1978年の台風委員会では、総合的な水害防禦対策に関する調査・研究活動を提供するに当たり、この新しい問題に関する研修についても要望が出され、日本政府がこれに対応することを約束したわけである。これが1979年に始めて本集団研修コースが発足した経緯である。コースは河川工学コースと同様JICAベースで行われ、参加国は台風委員会加盟国に限らず、広く門戸が開放された。

2 研修員氏名および研修カリキュラム

第3回洪水防禦コースは、1981年7月30日から9月25日にかけて行われた。研修のカリキュラムは以下のとおりである。

第3回洪水防禦コースカリキュラム

月 日	曜日	課 題 (内 容)	講 師
7 / 30	木	来 日	
8 / 3 7	月 金	ブリーフィング JICA	
10	月	建設省表敬 移動 (東京→筑波)	
11	火	土研表敬・セミナーコース紹介 パイロット河川の課題	富永・吉野 吉野
12	水	洪水防禦法 (総論) (特) 東南アジア河川の洪水危険図	吉野 大矢
13	木	(特) アジアの河川の洪水問題 土研施設見学	椎貝 本間
14	金	洪水防禦法 (流域管理) " (水防, 復旧等)	吉川
17	月	カントリーレポート発表	竹村・栗城 吉野・吉川
18	火	"	"
19	水	水文観測と洪水防禦計画への応用 " レーダ雨量計	大倉
20	木	砂防と流域管理	渡辺
21	金	流域特性と流出, 洪水防禦計画への応用	佐合・寺川
24	月	(特) 東南アジア河川の洪水予報と洪水防禦計画への応用	木下
25	火	(特) 利根川開発と治水	虫明
26	水	} 利根川・江戸川・中川・荒川現地調査	赤桐・吉川
27	木		
28	金		
31	月	} 河川地形論 } 水害危険図作成手法	赤桐
9 / 1	火		

月 日	曜日	課 題 (内 容)	講 師
2	水	パイロット河川の水害危険図討議 "	吉野・赤桐 吉川
3	木	}パイロット河川の水害危険図の整理	赤桐・吉川
4	金		
7	月	パイロット河川の洪水防禦計画討議	竹村・栗城 吉野・吉川
8	火	}パイロット河川の洪水防禦計画等の作成	竹村・栗城 吉野・吉川
9	水		
10	木		
11	金	鶴見川総合治水計画	小林
14	月	鶴見川現地見学	京浜工事事務所
15	火	祭 日	
16	水	}淀川洪水予警報システム 淀川現地調査	吉川
17	木		
18	金		
19	土		
21	月	}最終報告書作成	吉野・吉川
22	火		Evaluation Discussion, 閉講式 竹村・栗城 吉野・吉川
23	水	祭 日	
24	木	帰国準備	
25	金	帰 国	

建-5	コース名：都市計画	定員 13名
-----	-----------	-----------

受入期間：56. 8. 20 ~ 56. 10. 31

関係省庁：建設省都市局

受入機関：(社)国土開発協会(経理委託)

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
インドネシア	3	1	パラグアイ	1	1
大韓民国	3	1	ペルー	2	1
マレーシア	1	1	ヴェネズエラ	2	1
フィリピン	3	1			
タイ	2	1			
中国	1	1			
エジプト	1	1			
イラク	2	1			
ジョルダン	2	1			
モロッコ	1	1			
シリア	3	1			
ケニア	1	1			
アルゼンティン	2	1			
ブラジル	2	1			
メキシコ	1	1			

受入担当：大久保宏明

コーディネーター：岡部昭子，長谷川芳子

昭和56年度(都市計画コース)エバリエーション結果

昭和56年10月29日(木)
於：機山館

I プログラムについて

1. 全体の期間(2カ月間)について

○ほとんどの人がちょうどよいとしている。 ※(フィリピン)
長すぎる……同じようなことを話している。

2. 講義と見学など個別の時間

○講義(特に同じような講義)はもっと短かく、見学を長く → 11人
(中国)
短かすぎる。

○講義をもっと長く……2人

○土曜日は休みに

○帰国前の前週の木曜日、金曜日、をFree dayにしてほしい。

II 講義について

○方法論をもっと多く講義してもらいたい。→5人

○交通量の計算方法の講義をしてもらいたい。

○process of planning, method of analysisを知りたい。

○講義内容の重複を防いでほしい。

○高姿勢な態度は慎んでもらいたい(指名したり、テキストをくぼるだけで討論しない場合)

○ディスカッションの時間をふやしてほしい。

○カンントリーレポート発表会、MOCレポート発表会のときテーマごとに分れて小グループで討論するほうがよい。

○開発の実際のやり方がわからない。

III 見 学

○見学へ行く前に見学先のことや目的を説明してほしい。

○スケジュールがハードである。

○もっと時間がほしい。

○もっといろんな所へ行きたい。

○見学の最終日が週末になった場合、現地解散にしてほしい。

○いい所だけでなくスラムなどの問題箇所も見せてほしい。

IV G.I. (general information) について

○MOC (ministry of construction) レポートのことを追加して書いておいてもらいたい。

都市計画 1981 反省会

1981年10月29日

I G.I.

全員来日前にG.I.入手

- Mr. Thogo もっと早くに入手しておきたかった。
- Mr. Ibrakim コースプログラムの記述が詳細でなく特に、MOCレポートをコース中に作成し、提出するということを明記して欲しい。事前に自国で資料を整備しておきたいので)
- Mr. Shammari もっと早く送って欲しい。
- Mr. manuel 大学にもG.I.を送付して欲しい。

II コース期間

下記の者以外、期間は適当と思われる。

- Mr. Manuel 短かすぎる。
- Mr. Thogo プログラムが再編成されるなら3ヶ月位欲しい。
今のままなら今回の期間と同じでも良いと思う。
- Ms. Rosario 長すぎる。講義は重複したものが多く。もっと短くつめることが出来ると思う。
- Ms. Yin Ming もっと長い方が適当と思われる。

III プログラムの時間配分

- Mr. Shammari } 見学を増し、講義を減らして欲しい。
- Ms. Rosario
- Mr. Ibrahim } 講義は充分にあった。見学を増して欲しい。
- Mr. Park
- Ms. Ligia, Ms. Graciela, Mr. Garad,
Mr. Manuel, Mr. Thogo, Ms. Yin Ming
- Ms. Efena 見学を増して欲しい。

IV 講義

○理論、方法論に力を入れて欲しい。

- 1) 都市計画理論 (M. Shammari)
- 2) 理論と実践のバランスを保って欲しい。(Mr. Ibrahim)
- 3) 方法論 (Mr. Ibrahim, Ms. Susana, Mr. Mateus)
- 4) 計画の方法論、立案過程、分析、問題の解決法 (Mr. Susana, Mr. Thogo)

- 実際、実践にウエイトを置いて欲しい…………… Ms. Rosario
- その他組み入れて欲しい科目
 - 1) 交通量計算方法 (Mr. Park)
 - 2) 住宅建設方法 (Mr. Mateus)
 - 3) 中規模都市の計画 (Mr. Garad)
 - 4) 建築 (Mr. Manuel)
 - 5) 民間会社の入札・建設手順 (Mr. Elena)
 - 6) 社会・経済的側面からとらえた都市計画についての講義 (例 都市経済論、財政システム 予測論)
(Mr. Thogo)
 - 7) システム分析 (Ms. Rosario)
 - 8) 交通システムシミュレーション (Ms. Rosario)
 - 9) 地下街 (Ms. Yin Ming)
- 減らして欲しい講義
 - 下水道、上水道 (Mr. Shammari)
- 講師について
 - 1) 英語で講義をする講師のうち、教科書を棒読みする方がいて、退屈だった。英語がよく理解できなかった。(Mr. Masri, Ms. Graciela, Mr. Manuel, Ms. Elena, Mr. Thogo, Ms. Rosario, Ms. Yin Ming)
 - 2) 講義の内容が講師間で重複していた。(Ms. Rosario)
- その他
 - コースリーダーは講義の内容を事前に把握しておくべきである。(Mr. Hassan)

V 見 学

- 1) 見学地について事前(数日前に)に概要的な説明を与えて欲しい。そうすれば、興味、関心、質問等前もって準備できるから (Mr. Ibrahim)
- 2) 時間が限られていて、スケジュールがきつかった。(Mr. Masri, Ms. Ligia, Ms. Graciela, Ms. Susana, Mr. Garad, Ms. Elena)
- 3) 希望する見学先
 - 市区役所で市民が建築許可をとる手順について実際に見たい。(Mr. Ibrahim)
 - 東工大、都市計画学科(同上)
 - 札幌市 (Mr. Park)
 - 建設省都市計画課で実際に都市計画が決定されるまでの過程を見学したい。(Mr. Masri)
- 4) 興味深かった。不可欠であった。
 - (Mr. Park, Ms. Graciela, Ms. Susana, Mr. Mateus, Mr. Garad, Ms. Elena, Mr. Thogo, Ms. Rosario)
- 5) その他
 - 良い面しか見られなかった。(Mr. Hassan)

○良く準備されていた (Ms. Rosario)

○養豚団地、茶畑見学(掛川) は必要ではなかった。(Ms. Yin Ming)

VI カントリーレポート

- 1) 必要である。
- 2) 討議時間が足りなかった。
- 3) 発表方法に改善の余地がある。

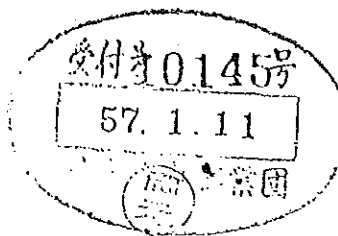
VIII 全体を通じた印象、評価

- 1) 言葉(日本語)伝達で困った。
- 2) 違った環境に慣れるのに時間がかかった。特に講義に4時間拘束されてつらかった。(Ms. Rosario)
- 3) 日本賛辞
- 4) 研修 "

昭和56年11月30日

国際協力事業団

契約担当理事 瀬川治久 殿



研修事業部

東京都港区虎ノ門一丁目10番10号

第5森ビル別館

財団法人 国際計画協会

会長 徳川 宗



昭和56年度海外技術研修都市計画コース
研修実施報告書について

昭和56年8月19日付契約した海外技術員の研修「都市計画コース」(契約金額2,089,530円)が完了したので下記の書類を添えて報告します。

記

1. 研修実施報告書
2. 精算報告書 (略)

昭和56年度外国人研修都市計画コース研修 実施報告書

1. 研修実施概要

- 1) 実施期間 自 昭和56年8月20日
至 昭和56年10月31日
- 2) 実施機関 建設省及び(財)国土計画協会
- 3) 主たる研修場所 機山館
- 4) 定員 17名
- 5) 応募割当国

インドネシア	モロッコ
大韓民国	シリア
マレーシア	ケニア
フィリピン	アルゼンチン
スリランカ	ブラジル
タイ	メキシコ
中国	パラグアイ
エジプト	ペルー
イラク	ベネズエラ
ジョルダン	19ヶ国(定員13名)

6) 応募国及人数

応募国	人数	応募国	人数
中国	1	アルゼンチン	2
モロッコ	1	ヴェネズエラ	3
シリア	1	タイ	2
ブラジル	2	ペルー	2
フィリピン	3	パラグアイ	1
エジプト	1	マレーシア	1
大韓民国	3	ケニア	1
メキシコ	1	インドネシア	3
ジョルダン	2		
イラク	2	計 18ヶ国	32名

7) 参加国及人数

参加国	人数	参加国	人数
中国	1	アルゼンチン	1
シリア	1	ヴェネズエラ	1
ブラジル	1	タイ	1
フィリピン	1	ペルー	1
エジプト	1	パラグアイ	1
大韓民国	1	マレーシア	1
メキシコ	1	ケニア	1
ジョルダン	1	インドネシア	1
イラク	1		
		計 17ヶ国	17名

8) カリキュラム

オリエンテーション	5 日
研修ガイダンス	0.5 日
カンントリーレポート	2.5 日
レポート発表会	2.5 日
討 論 会	0.5 日
エバリエーション	0.5 日
特 別 講 演	0.5 日
日本の都市の歴史	0.5 日
日本の土地制度	0.5 日
日本の宅地	0.5 日
日本の建築	0.5 日
都市計画の概要	0.5 日
都市計画法	1 日
国土計画、地域計画	0.5 日
建築基準法	0.5 日
土地利用計画	0.5 日
日本の都市問題	0.5 日
都市整備に関する行財政制度	0.5 日
東京都の都市計画	1 日
土地区画整理事業	1 日

日本住宅公団の組織と事業概要	0.5日
再開発事業	0.5日
日本の住宅建設計画	0.5日
公園・緑地計画	0.5日
レクリエーション計画	0.5日
公園・緑地整備事業	0.5日
交通施設計画	0.5日
交通施設整備事業	0.5日
都市高速鉄道事業	0.5日
新交通システム	0.5日
都市高速道路事業	0.5日
駐車場、流通センター整備計画	0.5日
都市交通としてのバス事業計画	0.5日
農村整備計画	0.5日
筑波学園都市構想	0.5日
交通安全施設整備計画	0.5日
計画システム	0.5日
下水道の計画と事業	0.5日
上水道の計画と事業	0.5日
地 図	0.5日
地図情報	0.5日
日本の環境問題の現状と対策	0.5日
発展途上国の都市開発事業	0.5日
都市施設見学 0.5日×6+1日	4日
レポート作成	1日
地方都市（静岡、掛川、鎌倉）見学	4日
土木研究所、建築研究所	3日
研修旅行	6日
表敬訪問	0.5日

計50日

研修成果

本研修への参加者は、日本の都市計画及び参加国の都市計画について見識を深め、その利点の活用、難点の克服について、発表や討論等を行い、よりよい成果を得た。尚、今後検討を要する事項について下記に示す。

1. プログラムについて

全体の期間についてはよいと思われるが、全体的にハードであり、講義の日、フリーの日、の配分について再検討を要する。

2. 講義について

理論、方法論への時間配分の再検討を必要であり、又テーマごとの集約的な講義の設定を要する。

3. レポート発表会について

発表時間及び発表形式の再検討を要する。

4. 見学について

見学先をしぼり、十分理解できるよう時間配分に気をつける。

建-6	コース名： 橋 梁 工 学	定員 15 名
-----	---------------	------------

受入期間： 56. 8. 20 ~ 56. 11. 7

関係省庁： 建設省道路局

受入機関： (社)日本橋梁建設協会 (経理委託)

国別応募状況：

国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数
バングラデシュ	2	1	ボリヴィア	4	1
ビルマ	1	1	ブラジル	2	2
インドネシア	1	1	コロンビア	2	1
マレーシア	0	0			
フィリピン	0	0			
シンガポール	1	1			
タイ	1	1			
エジプト	2	1			
イラク	2	1			
シリア	2	1			
トルコ	2	1			
ガーナ	0	0			
ケニア	2	1			
タンザニア	1	1			
ザイール	0	0			

受入担当： 梅崎 裕

コーディネーター： 田村悦二郎, 高島幸子

昭和56年度橋梁工学コース研修実施報告書

研修期間 昭和56年8月20日～昭和56年11月7日

研修員 Mr. Mohammed Mahmud (バングラデシュ)他14名

宿 舎 東京インターナショナルセンター

研修機関 (担当)

建設省 道路局 国道第二課
課長補佐 藤原 稔
橋梁係長 光家 康夫

建設省 土木研究所 企画部企画課
建設専門官 武藤 富雄

日本道路公団 企画調査部 企画課
課長補佐 鳥居 康政
川澄 美道

首都高速道路公団 工務部 工務企画課
課長補佐 三橋 晃司
原 光夫

研修委託先 社団法人 日本橋梁建設協会
経理担当 宇野 波子

研修監理員 社団法人 国際協力サービスセンター
田村 悦次郎
高島 幸子

担 当 研修事業部 研修第1課
梅崎 裕

1. コースの概要について

本コースは建設省道路局を受入先とし、講義・討論・実習をして見学を通じて日本の橋梁技術について技術移転をはかることを目的として、昭和40年度より実施している。現在まで16回実施しており、受入実績は31カ国186名に達している。

橋梁工学についての研修内容を鑑みるとほぼ講義内容は完成されているものと言えるが、近年の研修内容は次のとおり。

研 修 内 容	日 数	構 成 比
1 General Orientation, Program Orientation	5	10%
2 日本の道路・橋梁について 日本の道路について 都市高速道路について 高速道路について 本州四国連絡橋について	6	12
3 講義（理論面） 橋梁の構造分析論 橋梁設計論 コンクリート橋特論 構造力学特論 鋼合成桁特論	6	12
4 講義（応用面） P.C橋の設計・施工 P.C橋の設計・施工 鋼橋の設計・施工 鋼合成桁の設計・施工 基礎の設計・施工 耐風設計 耐震設計 土質力学及び土質調査 橋梁計画 橋梁の維持・保守 橋梁の自動設計、標準設計	15	30
5 個別専門研修	6	12
6 研修旅行及び郊外現場見学	12	24
計	50	100

2. コースの運営について

本年度実施にあたり前年度の研修員よりの評価・要望事項を踏まえ下記の事項に留意し実施した。

1) 講義科目について

伸縮継手や支承、橋梁形式の選定、比較設計等の講義を追加して欲しいとの要望があり、講師等の都合から支承の設計として1科目追加、その他については類似講義にて言及することとした。また、下部構造

についての講義の時間数を増加して欲しいとの要望があったが、座席特論を新たに設けた。

2) 現場見学について

研修員の評価は概して良好ではあるが、日頃の講義内容と現場との関連性が少し明確でないとの意見があったため、見学の前日に対象現場の説明の時間を設け講義と現場見学の橋渡しを考慮した。

3) 地方研修旅行について

1日に見学する橋梁の数が多く一橋あたりの説明時間が少ないとの意見があり、見学橋梁を厳選し一橋に十分な説明・討論の時間をかけ説明内容も諸元に関するものだけでなく、選定についての説明に重点をおくように計画をした。

4) 個別研修について

従来より、PC橋、鋼橋、構造物について4グループに分け1週間工事事務所や土木研究所において研修員の要望を取り入れた研修を実施し、研修員の高い評価を得ている。研修期間の延長を望む声も多く、一方で受入先、日程の都合より延長が不可能なため、なるべく近郊の工事事務所に設定するなど移動に係る時間を削減し、実際の研修時間を確保するよう努めた。

3. 研修員の選考について

本年度は定員15名に対し、18ヶ国に1名ずつ割当てた。

14カ国から24名の要請があり、残りマレーシア、フィリピン、ガーナ、ザイールの4カ国からは要請がなかった。選考の結果複数要請のあったブラジルについては兩名、その他バングラデシュ、エジプト、シリア、ケニア、ポリビア、そしてコロンビアについては定員等の制約もあり、資格要件に鑑み各1名ずつ選考することとし、別添リストのとおり計14カ国15名受入れた。

4. カリキュラム及び使用資機材について

詳細は別添監理業務のまとめ添付資料のとおりであるが、本コースの特徴の一つとして視聴覚機材が多く使われていることがあげられるものとする。従って講義場所として東京国際センターの使用はコースの実施にあたって不可欠のものであり、今後ともTICの教室は確保してゆく必要がある。

また、テキストについては、昭和54年度、55年度と2カ年にわたってその核となる部分については合本化が計られたが、今後ともその充実に力を入れる必要がある。

5. 評価及び今後の改善点

本コースに対する研修員の評価は良好なものであり、特に大学教授の特論(講義)、個別研修等については非常に評価が高く、時間あるいは期間の延長を望む意見が多くみられた。前出2.4)にて述べたように個別専門研修については受入先の都合から1週間が限度であるので、今後研修員の要望を1週間の枠内でいかに満足させるものとしてゆくか、コーディネートの方法を再考し改善してゆくこと以外にないと思われる。

コース運営にあたって、2.で述べたような問題点の外になおかつ今後考慮してゆく必要のある問題点は、次のものがあると考えられる。

1) 途上国の実情にあった橋梁つまりコンクリート橋について研修を多くすること。

現在日本にあっては建設の採算性、耐震性から鋼橋が多く架けられているが、途上国にあってはかえってコンクリート橋のほうが採算がとれるため、現在実施している。プログラムが鋼橋中心となっていることに対し、研修全体としては良い評価を与えつつも幾分不満は残るようである。

2) 建設中の現場見学の増加

橋梁工学の研修分野の性質上完成された橋梁について見学するよりも、建設の現場見学を数多く、実施することが見学の意義の増大に繋がる。

3) 研修員参加のプログラム化及びその成果の具現化について

今年度を含めすでに17回の研修を実施し、現在のカリキュラムが固まっている訳であるが、更に研修内容を充実するためには、研修員参加のプログラム化が必要であると考えられる。

現在個別専門研修を1週間設けているが、これと、カントリーレポート、演習の実施、技術レポートの提出等を集団研修の枠内での研修成果を個別深化させる方向で検討する必要があると思料される。

4) その他

最後に研修監理員の配置について再考する必要があるであろう。今年度は前年度通り2名(内1名は前年度に引き続き)を配置したが、別添監理業務のまともにも明らかなように通訳率はほぼ0%であり、もし研修監理業務を通訳業務のみと捕えた場合2名はおろか1名も全期間に配置する必要は無いものと言わざるを得ない。しかし、通訳業務のみが研修監理業務の全てではなく、今年度試みた日々の研修内容一覧表の作成あるいは研修第1課の前任者より実施している、研修員の日々のエバリュエーション等、研修実施にあたっては必要なものがあり、また、研修員とJICA担当者あるいは研修先との橋渡し役として他の集団コースと同じ役割も担っているのである。

研修監理業務とは何かについてその明確な位置づけが問われているが、次に今年度研修監理業務として依頼した事項の主なものを挙げ今後の検討の一助としたい。

1) 研修全般に関すること

○ 研修監理報告

指定の様式に研修概要、使用資機材所感を記入

○ 研修員によるエバリュエーション

指定の様式を配布、回収し集計すること

○ 通訳業務(必要に応じ)

2) 講義に関すること

○ 講師への事前確認連絡

○ 講師の紹介

○ テキスト参考資料の配布

○ スライド、O.H.P. 16mm²技師等の手配補助

3) その他、集団・個別研修に共通すること

研修の実施にあたって、研修担当者と監理員の意志の疎通は何にもまして重要であるが、今年度コース実施にあたって評価の手法等に完全な理解が得られなかったのは残念であった。

昭和56年度(集団)橋梁工学コース 研修監理業務のまとめ

〔I〕 概 要

実施期間：昭和56年8月20日～11月7日
参加研修員：14カ国 15名
研修期間：昭和56年8月31日～10月30日
研修実施日数：45日
研修内容：講義 32科目 39単位(半日を1単位とする)
内、日本語による講義 2科目 2単位
研修旅行 10日
個別研修 5日
見 学 4カ所

〔II〕 研修員からの希望・意見

- 講義に関して
 - (1) 大学教授による講義をより多くして欲しい
 - (2) 講義科目が広範囲にわたっており、総てを吸収するにはより多くの日時を必要とする
 - (3) 鋼橋でなく、コンクリート橋の講義を増やして欲しい
 - (4) 地震についての講義は一部の研修員にのみ有益である
- 個別研修に関して
 - (1) 期間の延長を望む
 - (2) 建設中の現場一カ所に滞在したい
- 見学及び研修旅行について
 - (1) 日帰り見学の際、バスを利用すると交通事情により、予定が大幅に狂いがちである。
 - (2) ホテルはシングル、素泊りを希望
 - (3) 広島見学を入れる。
- テキスト、教材、資料等について
 - (1) 日本語版の資料の配布をやめる
 - (2) 16mmフィルムの日本語ナレーションの使用を避ける
- 生活面について
 - (1) TICに、より厳しい規律を
 - (2) 騒がしい研修員を1カ所にまとめる
 - (3) 生活費・資料送付料の増額

○その他

- (1) 英語を理解するにもかかわらず、話さない人は感じがある

○今後のために

- (1) コース修了後、ある期間の後、更に進んだ技術等を学ぶ機会として、セミナー等を設けて欲しい

〔Ⅲ〕 研修監理員からの希望・意見

○コース開始にあたって

- (1) 各講義とその内容をまとめて、どのレベルで行うかを明確にする
- (2) 研修員の中には、単純な意志疎通にも事欠く程、不十分な英語力の者もあり、語学面での選考方法の再考を望む

○講義について

- (1) 講義中、全く発言しない研修員もあり、講義をどのように受け取っているかわからない
- (2) 研修員の専門分野が違うために講義によっては興味を示さない人もいた

○講師について

- (1) 講師リストに、テキスト名、使用機器、その他を含める
- (2) 講師リスト作成の時点を最終とし、その後変更の場合、講師より連絡してもらい確認電話の廃止
- (3) 各講師に英文、及び和文で講義内容をまとめてもらう
- (4) 研修監理員が講義に同席するのが好まない講師もいる

○テキスト・教材・資料等について

- (1) テキストはT I Cに送付、研修員に前もって手渡す
- (2) 必要なテキストのみ配布
- (3) 必要部数の統一
- (4) 視覚教材の使用法が効果的でない場合もある
- (5) 同一フィルムの使用を避ける
- (6) 資料の保存法の合理化

○研修旅行について

- (1) ネームリストを前もってホテルに送り、チェックインの簡素化をはかる。
- (2) 京都の場合のように見学個所を知らせて欲しい
- (3) 国体乗車券の使用をやめる
- (4) 研修旅行第1日目の出発時間を遅らせる

○Evaluation form & Final reportについて

- (1) 個々の評価をやめて、講義、個別研修、見学、研修旅行の項目のみ与え、気付いたことを書いてもらう
- (2) 講義、見学先等について、どれが一番興味をひいたか、またどれが一番有益であったかを尋ねる項目を加える。

(3) formの量が多く、多大な負担となって無理やり書かせた感があり、これでは公平な評価を期待できない

(4) Final reportをはじめ、配布物はコース開始時に渡す

○今後のために

(1) 研修員のネームリストに写真を入れる

(2) 研修員の研修成果を知る意味で論文を書かせ、まとめて論文集とする

昭和56年11月12日

担当研修監理員

田 村 悦次郎

高 島 幸 子

月日 (時間)	講義又は見学項目 (講師名)	概 (含 通訳率)	要 (含 通訳率)	使用テキスト資料	所 感
8/1 AM PM	日本の道路 (溝口忠) 高速自動車国道 (鳥井康政)	日本全国の道路についての説明 通訳率...0% 日本の高速道路全般に対する説明 通訳率...0%	日本全国の道路についての説明 通訳率...0%	"Roads in Japan" "National Expressway Practices in Japan" 16mm 映画 1本	使用した日本地図がTextの付録で小さかったのもっと大きなのがあつたと判り易いと思つた。 全体的に概略を良く説明していた。
9/1 AM PM	都市内高速道路 (原光夫) 橋梁計画 (金井道夫)	東京都内及び近郊の高速道路の紹介とその概略 通訳率...0% スライドを利用しての様々な橋梁の紹介 通訳率...0%	東京都内及び近郊の高速道路の紹介 通訳率...0%	"Metropolitan Expressway Public Corporation 1980" "Typical Structures on the Tokyo Metropolitan Expressway" "Expressway in Urban Area" "Metropolitan Expressway" 「横浜港横断橋」 16mm 映画 2本、オートスライド1本 テキストは特になし スライド 80枚	16mm映画2本、オートスライドを1本見せたため、講師の講義時間は30分程になつてしまい、視覚教材使用過多の感がある。 スライドによる橋梁の紹介だったので非常に判り易かつた。
9/2	土木研究所見学	諸実験施設(構造物、耐風工学、構造力学、振動、デュアルモード、基礎特殊)、研究所長へ表敬 通訳率...表敬時のみ	諸実験施設(構造物、耐風工学、構造力学、振動、デュアルモード、基礎特殊)、研究所長へ表敬 通訳率...表敬時のみ	"Public Works Research Institute at Tsukuba Science City" "Dual Mode Bus System" "Dual Mode Truck System" "Vibration Laboratory" 土木研究所概要説明スライド デュアルモード実験映画	研究所の施設をいろいろ見学出来たのは良かったが、実験の実験があまり行われていなかったのは残念、との声が研修員から出た。

月日 (時間)	講義又は見学項目 (講師名)	概 要 (含 通訳率)	使用テキスト資料	所 感
9/3 PM	土 質 調 査 (久 楽 勝 行)	資料とスライドに基づき、種々の土質実験の説明 通訳率...0%	"Examples of Site Investigation" スライド	英文ダイトトルだが、和文の資料のためその説明にやや時間がかかってしまった。
9/4 AM	橋 台、 橋 脚 の 設 計 (塩 井 幸 武) 基 礎 形 式 の 選 定 (")	橋台、橋脚の種類とその設計に用いられる数式の説明 通訳率...0% スライドを使用しての基礎形式の選定のし方についての説明 通訳率...0%	"Calculation Examples of Abutment and Pier of Highway Bridge" "Types of Foundation" スライド 92枚	全体的に説明も丁寧で、研修員の質問にも非常に詳しく答えて下さり、充実していた。
9/4	日 本 鋼 管 京 浜 製 鉄 所 見 学	日本鋼管京浜製鉄所の中で、特に島地区の、高炉、製鋼工場、厚板工場、熱延工場を中心に見学。	"STEEL PLATES FOR OFFSHORE STRUCTURES"	時間的余裕を持って十分に、工場を見学出来、研修員の質問に鋼管側も十分答えていた。
9/8 AM PM	基 礎 の 設 計 (浅 沼 秀 爾)	土質に合った基礎の設計について 杭基礎の設計について 通訳率...0%	"TEXT FOR COURSE ON BRIDGE ENGINEERING"	午前中は少し緊張気味だったが、午後はすっかり打ち打ち落けて良い奮闘気だった。
9/8 AM PM	基 礎 の 施 工 (下 村 嘉 平 衛)	基礎工場の種類と説明	"MEMORANDUM ON CONSTRUCTION OF BRIDGE FOUNDATION IN JAPAN", オートスライド, 15冊 16冊 71冊 4×3本, "MITSUBISHI BORING MACHINE MT SERIES" "MITSUBISHI-HUGHES SHAFT DRILLING MACHINES MD SERIES"	

月日 (時間)	講義又は見学項目 (講師名)	概要 (含 通訳率)	使用テキストと変機材	所 感
			<p>"HITACHI PO 100 HYDRAULIC PILE DRIVER" "HITACHI EARTH DRILL" "HITACHI REVERSE CIRCULATION DRILLS" "TOP-OF-LINE CONSTRUCTION EQUIPMENT FROM HITACHI" "DIESEL PILE HAMMERS" "SPECIFICATIONS OF PILE HAMMER" "IHI - MENCK OFFSHORE PILE HAMMERS MRBS" "TONE GROUND ENGINEERING NEWS" (inf NO. TN-002-3, 6-12, 14) "DRILLING MACHINES & EXCAVATORS" " TONE SHIELD DRILLING SYSTEM " " TBH REVERSE CIRCULATION DRILL " " TONE MULTI-STAGE DESANDING EQUIPMENT " " BW LONG WALL DRILL " " RRC-U F R E E D I A M E T E R CONTROL REVERSE CIRCULATION DRILL " " RODLESS REVERSE CIRCULATION DRILL " " TONE BORING " " MITSUBISHI DIESEL PILE HAMMER MH SERIES "</p>	
9/10	R C 橋 の 設 計 (小 寺 重 郎)	午前半と、午後の後半部に、テキスト ストを利用しての講義で、間はスラ イドと16mmを3本やった。 通訳率...0%	<p>" Reinforced Concrete Bridges in Japan " " Specifications for Design of Reinforced Concrete Bridges " "英文資料題名なし"</p>	スライド100枚、16mm映画を3本見せ、 (しかもそのうち2本は日本語の説明入 の為)、視覚教材使い過ぎと思われる。

月日 (時間)	講義又は見学項目 (講師名)	概 要 (含 通訳率)	使用テキスト、資料、機材	所 感
9/14	P C 橋 の 施 工 (万 木 正 弘)	水とセメントとの比率について。コンクリートの品質について。暑い気候のコンクリート。上部構造のコンクリート。強力可塑剤。 通訳率…0%	" PRACTICES IN CONSTRUCTION OF REINFORCED CONCRETE STRUCTURES " " KAO MIGHTY WATER REDUCING AND PLASTICIZING ADMIX TURES FOR CONCRETE " 16冊 × 2本	16冊フィルムを午前・午後それぞれ30分ずつ用い、講義と視覚教材との時間の配分が丁度良いと思った。16冊は1本が日本語だったので英語の解説だったら、はるかに効果的だったと思う。
9/16 PM	関越自動車道沼田地区 (檜 山 義 光)	スライドを見せながら建設中の沼尾川橋、片品川橋等についての説明 通訳率…0%	橋梁と景観 16冊 × 1本	16冊フィルムが鹿島建設製作の浜名大橋のもので、2日前の万木氏のものと同様してしまった。
9/17	関越自動車道沼田地区	沼尾川橋、片品川橋の説明を高崎工事事務所で行い、その後実際の現場で、さらに詳細な解説。 通訳率…0%	「橋梁」 「沼田」 " Three Giant Bridges "	資料は日本語のが2冊であったが説明を英語で詳しく行ったので良かった。特に現場での質疑応答は充分時間もあり研修員は活発に質問をしていた。 ※
9/18	北海道ピート関東工場	工場概要説明の後、製造工程の見学。スラブ橋用PC桁、けた橋用PC桁、新幹線用軌道スラブ等の製品を中心として見学。 通訳率…0%	" A Guide to Kanto Factory " " Hokkaido P.S. Concrete Co., Ltd. Kanto Factory General Plan " " Outline of Activities " 「25年の歩み」	本コース研修員見学の為に、日本人のみのパンフレット全部英文訳を添付し、本社より英語の出来る技術部長が来て英語で説明を行うなどの受け入れ側の努力にむくいるかのように研修員も熱心であった。

月日 (時間)	講義又は見学項目 (講師名)	概 要 (含 通訳率)	使用テキスト資料	所 感
9/21	PC橋の施工 (長崎文麿)	PC橋の施工をスライド70枚程度使用し説明し、午後は「東北新幹線-第1北上川橋梁の建設」「カーブ橋の押し出し工法」「関越自動車道の荒川橋」の三本の16冊映画(日本語版)を見せた。 通訳率...0%	<p>"Prestressed Concrete Bridges Prevailing in Japan"</p> <p>"Kan-Etsu Highway Arakuwa Bridge PC Structure Works"</p> <p>"Ebara Bridge Structure Work"</p> <p>"PC Cable Staged Bridge"</p> <p>"JIS A 5313"</p> <p>"JIS A 5316"</p> <p>"Classification of PC Bridge"</p> <p>"Saidaiji Ohashi"</p> <p>「押し出し工法」</p> <p>「押し出し工法・佐波川橋」</p> <p>"Oimatsu Bridge"</p> <p>「金沢高架橋(P.C.上部工)工事」</p>	非常に熱心に説明してくれて講師ではあるが、視覚教材の使いすぎである。また、講義で使用しないテキストも非常に多い。
9/22	コンクリート橋特論 (池田尚治)	せん断、コンクリートの強度、ポイントとせん断との関係、鉄筋の限界、コンクリートのひび割れ間隔、接合の方法等 通訳率...0%	<p>"Allowable Shear stress in PC Spec."</p> <p>"Building Code" "Recommended Practice for Evaluation of Joints in Reinforcing Bars"</p> <p>"Study of a Method of Immediate Estimation of Concrete Strength"</p>	講義の運びがスムーズで整然としており、明瞭な授業だった。 また、鉄筋コンクリートの失敗例をスライドを見せながら紹介して下さり、興味深かった。

月日 (時間)	講義又は見学項目 (講師名)	概 要 (含 通訳率)	使用テキスト、資機材	所 感
9/24	鋼橋の設計 (山寺徳明)	鋼橋の各部分についての詳細な説明。 通訳率…0%	「鉄筋コンクリート部材における鉄筋とコンクリートとの応力伝達に関する研究」スライド	OHPは他の講師があまり使用しないので新鮮であり、スライド、16mmの使用ばかりのなかで良いアクセントとなった。
9/25	本四架橋概説 (神弘夫)	本州・四国を結ぶ橋のもつ意義、工事の方法等を16mmフィルム、スライドを交えて説明 通訳率…0%	「The Honshu-Shikoku Bridges in Japan」 「Outline of Honshu-Shikoku Bridge Project」 16mmフィルム(本四架橋の設計調査)、スライド	Textを読みあげる時間が長かったので、もっと変化をつけた方が良いのではないかと思った。視覚機材は無駄がなくなるとまっていた。
9/28	見島湾大橋	岡山県見島湾にかける橋をまず図面にて説明のうち、現場を見学 通訳率…100%	「見島湾大橋の概要」 「KOJIMA BAY BRIDGE GENERAL VIEW」(3部)	工事中の記録写真のアルバム五冊は、研修員の興味をひいた。
9/29	本州四国連絡橋	船に乗り、概略説明を受け、橋がかかる場所を見ながら、四国側に渡り、モルタルプラント給を見学。 通訳率…0%	「Honshu-Shikoku Bridge Project KOJIMA-SAKAIDE ROUTE」 「世紀-モルタルプラント給」 「本州四国連絡橋」	説明担当の加藤設計課長は英語もすばらしく、充ちな見学が出来た。
9/30	モノレール小倉線 北九州都市高速道路	小倉から建設中のモノレールの終点まで行き、修理、保守、建設について	「KITAKYUSHU」 「北九州都市計画道路路線図」	モノレールの見学は大変興味深かったが、高速道路の方は、特に研修員は何ら関心

月日 (時間)	講義又は見学項目 (講師名)	概 要 (含 通訳率)	使用テキスト・資料	所 感
10/30		での活発な質疑応答、そして都市高速道路の簡単な説明。 通訳率…100%	「北九州都市高速道路案内」 「モノレール小倉線」 「都市モノレール小倉線」(二種) "General Specification for Kokura Monorail Line"	はないようだった。
10/1	天 草 五 橋	天草五橋のうち、最初の橋である天門橋を見学し、そのうち五つの橋が一目で見渡せる所で全体的な見学。 通訳率…0%	"The Amakusa 5 Great Bridges" 「熊本県道路管内図」 「くまもと」	天草五橋への研修員の興味はあまりないようであった。
10/2	三 菱 重 工 長 崎 造 船 所 旭 大 橋	三菱重工長崎造船所で、まず説明の映画を見た後、バスで造船所内を見学。旭大橋はやはりバスから、ながめたのみ。 通訳率…0%	"NAGASAKI SHIPYARD & ENGINE WORKS" "NAGASAKI JAPAN" "NAGASAKI AIRPORT" 「旭大橋」(英和両文) 「長崎県総合管内図」	造船所は、その規模などに驚かされることが主であった。
10/5 AM	橋 梁 の 維 持 補 修 (杉 浦 征 二)	首都公団の橋梁を具体例とし、講義の題名である維持補修についての詳細な説明 通訳率…0%	"PEPAIR FOR ELEVATED BRIDGES ON THE TOKYO METROPOLITAN EXPRESSWAY" "Application of Epoxy Resins in Strengthening of Concrete Structures" "Text For Course on Bridge Engineering"	講義終了後まで、質問をする2〜3の研修員がある程、興味を示していた。
PM	橋梁の自動設計、自動製図 (小 山 次 郎)	コンピュータによる設計・製図について実際にコンピュータによって描かれた図面、マイクログラム等を見ながら紹介		人手と時間を節約することのできる、コンピュータによる設計・製図は興味深いものだった。

月日 (時間)	講義又は見学項目 (講師名)	概 要 (含 通訳率)	使用テキスト資料機材	所 感
10/6 AM	橋の美 (関 淳)	約200枚のスライドを使用し、2時間半を、その説明に使用。 通訳率…0%	スライド(約200枚)	2時間半を、スライドを見続けるこの講義は、研修員の興味を特にひくとは思えない。
PM	橋梁の維持補修 (山口晃広)	最初の1時間を、補修工法の説明にあて、その1時間を口頭説明、スライド、そして8mm映画と、3つの方法で行ない、その後2ヶ所の都内建設現場見学。 通訳率…80%	"Reinforcement Method of Concrete member" 「ショーボンド技術資料シリーズNo.G-005」 「SHO-BOND」(和文) 「ピッグス工法」 「鉄筋コンクリート床版補強工法の開発に関する研究報告(その1)」 「鉄筋コンクリート床版及び桁補強工法の開発に関する研究報告(その2)」 スライド 8ミリ映画	短い時間で、手際良く説明、スライド、8ミリ、そしてさらに現場見学まで行い、研修員から、非常に重要な講義なので、半日では短すぎるとの意見が出た。講師は、橋梁コースの講師としては英語を話すのが得意ではないが、熱心さは十分研修員に伝わっていたようだ。
10/7 AM	鋼橋の施工 (池田 肇)	鋼橋の施工に於ける留意点、施工法の選び方とその他の特徴等 通訳率…50%	"Text For Seminar on Bridge Engineering" スライド16mmフィルム「オメガ鉄塔建設記録」 "Fabrication of Steel Bridges" スライド	16mmフィルムの「オメガ鉄塔」は橋梁の施工とは少し共通する点が少ないような気がした。 説明は非常に詳細にわたっていたが、鋼橋ということとで、研修員の関心は薄いようだった。
PM	鋼橋の施工 (鬼頭省吾)	鋼板の切断法、運搬法、溶接法、塗料の選定法についてスライドを見せながら説明した。 通訳率…0%		

月日 (時間)	講義又は見学項目 (講師名)	概 要 (含 通訳率)	使用テキスト資料	所 感
19/8	横河橋梁製作所見学	横河橋梁製作所千葉工場を製造工程に従って、詳細に見学した。 通訳率...30%	"YOKOGAWA STEEL BRIDGES and FRAMES" 「工場案内」	工場製作工程は研修員の興味をひいたが、大雨の中製品置場(屋外)まで見に行っただけは蛇足であった。
19/8 PM	耐 風 設 計 (佐藤弘史)	風の影響とそれに対処する為の設計法 通訳率...0%	"Text For Course on Bridge Engineering"	いろいろな方程式を交えながらの説明で詳細にわたっていた。
19/8 AM	構造物設計概論 (伊藤 学)	構造物を設計する際に留意すべき点-安全性の確認、荷重等を織り混ぜた概論 通訳率...0%	"Text For Seminar on Bridge Engineering" "British Standard Steel, Concrete and Composite bridges" OHP	OHPを利用しながらの講義で非常に良くまとまっていた。
PM	支 承 の 設 計 (田中敏幸)	支承の分類、構造、製造工程、機能等について。 通訳率...0%	"Bearings" "National Expressway Practices in JAPAN" "支承の話"	実際にいくつかの模型を持参しての説明だったので明確で効果的だった。
19/8 AM	耐 震 設 計 (栗林栄一)	スライド約170枚に、OHPも使用し、実際の地震による被害の写真等を利用しながらの講義。 通訳率...0%	"TEXT FOR COURSE ON BRIDGEENGINEERING" "Introduction to Earthquake-Resistant Design" スライド約170枚 OHP	耐震設計の講義は、地産のない国から来ている研修員には、あまり興味がないようであった。またスライドの枚数が少し多すぎた。

月日 (時間)	講義又は見学項目 (講師名)	概 要 (含 通訳率)	使用テキスト資料	所 感
10/21 AM	座 屈 特 論 (西野文雄)	座屈について、非常に明解な順序だった説明の講義。 通訳率...0%	"TEXT FOR SEMINAR ON BRIDGE ENGINEERING"	内容、授業の運び方、説明等が非常に素晴らしい。加えて英語も抜群であり、研修員から最高の講義であったとの感想が聞かれた。
PM	橋 梁 標 準 設 計 (池村雅司)	企画部システム課、日本工業規格の説明に始まり、橋梁の標準設計に至るまで、テキストから全く離れない、テキストそのままの説明。 通訳率...0%	"Standard and Automatic Design of Civil Engineering Structures" "Status of Japanese Industrial Standards" "Planning and Research Administration Department"	配布したゼログス・コピーや、テキストをそのまま読むだけで、研修員もはじめはそれを聞いていたが、次第にいらだちを見せ、本日前の乗降らしい講義とは正反対のものであった。
10/22	鋼 合 成 桁 特 論 (前田幸雄)	コンクリート、鋼材のどちらにも片寄らない中立の立場から見ただけの、それらの特質と鋼合成桁についての説明。 通訳率...0%	"Text for Course on Bridge Engineering" スライド	スライドの内容も豊富で、研修員との対話も交えた講義の進め方で活気にあふれ、研修員全員の注目をひいていた。

橋梁工学コース反省会議事録

日時) 昭和56年11月4日(水) 10:30~12:30

場所) 国際協力事業団 第5会議室

出席者) 研修第一課課長代理 笠井

" 班長 大久保

" 担当 梅崎

研修監理員 田村

" 高島

研修員 14名(1名は大使館の用務の為欠席)

議事概要)

以下の項目について担当が司会をし研修員の自由な意見を求めた。

I. General Information (G.I.)

(1) Did you read G.I. before arrival in Japan?

(2) Any Comments on G.I.?

II. General Orientation Programme

(1) Was it useful to you?

(2) Was 1 week enough?

(3) Any subject or topic which should be added?

III. Lectures

(1) What do you think of the subject taken up in each lecture?

(2) What do you say about the Overall level of the lectures?

IV. Special Training

(1) What do you think of the subjects taken up in the lectures and of the places you visited?

(2) Was its duration long enough?

V. Observation Trips

(1) Did what you saw on each trip interest you? Will it benefit you in the future?

(2) Was the duration of each trip appropriate?

VI. General Impression

(1) What was the most serious problem during stay in Japan?

(2) Did your idea of Japan change since you came to Japan, Compared with before? If yes, how?

VII. Overall Evaluation

- (1) Any other suggestion for further improvement of this course ?
- (2) In conclusion, how do you evaluate this course in overall ?

I (1) 読んだ(全員)

- (2) ◦プログラムが変更されていた(マゼン、イササ)
 - プログラムが遅着の為オリエンテーションに参加できなかった(マゼン)
 - プログラムが遅着の為機内で読んだ(イササ)
 - 何も問題はなかった(シュミット、カタヤマ、タナスカン、サン、ソーリオアディ、バルキール、タン)
 - 生活費の支給額が少なすぎる(サミエル、アブデルナセル、マームド)

II (1) 役に立った(全員)

- (2) 1週間で充分である(全員)
- (3) 日本語の日常会話をもっと取り入れて欲しい(アブデルナセル)

III (1) ◦良い(全員)

- 内容が広範囲にわたっている為、全てを詳細にわたって学ぶには、もっと長い期間が必要である。
ある特定の分野についてもっと時間をかけて集中すべきである(マゼン)

(2) ◦良い(全員)

- 大学教授の授業をもっと増やして欲しい(タン、アブデルナセル)

IV (1) 1. 建設省土木研究所

- T I Cにいた時と同じように講義をうけ、研修方法に変化がなかった(イササ)
- 耐震設計についての講義が、そのあとのT I Cでの講義と内容が重複していた(マームド)
- 耐震設計についての土研とT I Cでの講義の内容は別の物である(バルキール)

2. 首都高速道路公団

- 受入れ先は昼食についても考慮すべきである。
教材に使った16mmフィルムに非常に古いものがあった。(サミエル)

3. 日本道路公団

・横浜

- いろいろな現場を見ることができ良かった。担当の松崎氏が非常に良くしてくれた(タン)

・沼田

- 実際の現場を見ることができ良かった(シュミット)
- 毎日違う現場を見るのではなく、イカ所に2~3日滞りたかった(サン)

(2) ◦丁度良い(ほぼ全員)

○もっと長い方が望ましい(サミエル、マゼン、カタヤマ、アブデルナセル)

V (1) ○役に立つ(全員)

- 本四架橋のような計画を見ることができて良かった(サミエル、マームッド)
- 見学した橋梁の規模は適当であった(サミエル)
- 京都は1日で充分である。その分他を見学すべきである(サミエル、マームッド)
- 広島も見学先に加えて欲しい(サミエル、マームッド)
- 完成した橋よりも建設中のもを見学する方が良い(アブデルナセル)
- 京都の桂橋は見るに値しない(マームッド)

(2) 丁度良い(全員)

VI (1) ○言葉の不便を感じたが、切実な問題とはならなかった(アブデルナセル)

- T I C 宿泊者の規律をより厳しくすべきである(マゼン)
- 夜間騒ぐ者は1カ所に集めるべきである(マームッド)
- 食事(マームッド、サミエル、アブデルナセル)
- 家族を連れて来たい(タン、マームッド)
- 外人登録をすべきである(タン)

(2) ○映画から受けた印象と大分違っていた(ムキーラ)

- 日本人は外人に親切である(アブデルナセル、イササ)
- 日本は安全な国である(イササ)

VI (1) ○全体的に良かったが見学をもっと詳細にわたって行って欲しかった(マームッド)

(2) ○3カ月という期間は丁度良い長さである(タン)

建-7	コース名：地震工学	定員 21名
-----	-----------	-----------

受入期間：56.9.3～57.8.19

関係省庁：建設省建築研究所

受入機関：筑波インターナショナルセンター

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
ビルマ	1	1	コロンビア	0	0
インド	1	1	コスタリカ	1	1
インドネシア	2	2	エクアドル	1	1
大韓民国	0	0	グアテマラ	1	1
ネパール	1	1	エルサルバドル	1	1
パキスタン	1	1	ジャマイカ	0	0
フィリピン	1	1	メキシコ	0	0
タイ	2	2	ペルー	1	1
中国	0	0	ヴェネズエラ	1	1
エジプト	0	0	アルジェリア	0	0
イラク	1	1			
トルコ	0	0			
ザイール	1	1			
アルゼンティン	1	1			
チリ	0	0			

受入担当：石田幸男（本部），桜井英充（筑波インターナショナルセンター）

コーディネーター：五味 昭

1980年～1981年国際地盤工学研修（集団コース）
に係る行事の実施計画書

年月日	曜日	研修内容	備考
55年 9月17日	月	開講式・オリエンテーション	10:30 開講式 11:00 オリエンテーション 12:00 写真撮影 13:00 インタビュー
9月18日	火	一般講義開始	
10月27日	月	関西方面研修旅行	両コース
11月1日	土		
11月7日	金	スポーツ大会	
12月23日	火	国際親善パーティー	国地部1階ホール
12月24日	水	冬期休講	
56年 1月4日	日		
1月5日	月	講義再開	
3月30日	月	九州方面研修旅行	両コース
4月4日	土		
4月23日	木	講義予備日	
4月24日	金	"	
5月1日	金	スポーツ大会	
5月11日	月	北海道方面研修旅行	両コース
5月16日	土		
5月18日	月	個人研修説明会	
5月20日	水	個人研修開始	両コース
6月26日	金	個人研修中間発表会	
8月4日	火	レポート提出	
8月6日	木	個人研修最終発表会	両コース
8月7日	金		
8月14日	金	閉講式	11:15 閉講式 12:00 さよならパーティー

研 修 実 施 報 告 書

年 月 日

1. 区 分	集団 (<u>I</u> , II, 日歴) 個別 (単発, カウンターパート, 国際機関) 特定地域								
2. (集団) コース番号, コース名	(74) 地 震 工 学								
(個別) 実施予算番号, 研修科目	()								
3. 待 遇	<u>特</u> 準高級, 高級.								
4. 関係省庁 受入機関	建設省建築研究所								
5. 受入期間	55年9月4日から 56年8月20日まで								
6. Q.I送付時期(JIOA→外務省)	年 月 日 (研修員来日予定日の カ月前)								
7. 外務回答日 (第1回)	年 月 日 (第2回) 年 月 日 (最終) 年 月 日								
8. 研修員数	定員: 21 応募人数: 22 受入回答人数: 受入人数: 20								
9. 国別応募状況									
国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数	
エチオピア	2	2	タ イ	2	2	/			
エクアドル	1	1	フィリピン	1	1				
ベ ル ー	3	3	チ リ	1	1				
韓 国	1	1	ビ ル マ	1	1				
コスタリカ	1	0	インドネシア	2	2				
ネパール	1	1	イ ラ ン	1	1				
グアテマラ	1	1	パキスタン	1	1				
エジプト	1	1							
イ ン ド	1	1							
ジャマイカ	1	0							
			計					22	20
10. 研修実施経費	基 準 予 算 (千円)	実 行 予 算 (A) (千円)	支出依頼済額(B) (千円)	差 額 (A - B) (千円)					
総 額	23,205	20,706	16,088	4,618					
人 月 数	252								
/人月当たり経費									
11. 研修監理について				※半日を1単位として記入					
講義・実習数(A)※	講師による英語講義・実習数(B)	監理員による通訳講義・実習数	$\frac{B}{A}$ (%)						
			0						
(コメント)									
受入先の窓口である国際地震工学部管理室の主な業務が、地震工学コースの運営という事もあり、他の集団コースに比し、充分ケアされている。 講師陣も全員(含外部講師)英語堪能で通訳不要。									
12. 研修上の評価(研修が集団の場合Q.I記載の通りに、個別の場合あらかじめ計画した通りに実施されたかどうか。次の該当するものに○印をつける。)		(1) 計画通りに実施 (2) ほぼ計画通りに実施 (3) 計画通りに実施できない部分あり							
(コメント)									
計画通りに実施できたが、研修員サイドから見ると、同じ科目に対し、必要性、内容、レベル等評価がばらついている。但し これは集団コースの宿命みたいなもので止む得ないと思われる。他の面については、20年にわたる永い歴史があり、年々改善を図ってきた事もあり、特に問題はない。									

建-8	コース名：下水道技術	定員 12名
-----	------------	-----------

受入期間：56.9.10～56.12.14

関係省庁：建設省都市局

受入機関：

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
インドネシア	1	1			
シンガポール	1	1			
タイ	1	1			
中国	1	0			
ビルマ	2	2			
フィリピン	2	1			
マレーシア	1	1			
チリ	0	0			
パラグアイ	0	0			
ブラジル	3	2			
ペルー	0	0			
パプアニューギニア	1	0			
イラク	2	1			
サウディアラビア	1	1			
フィジー	1	1			

受入担当：外川徹 コースリーダー：中尾正和（日本下水道事業団）

コーディネーター：寺西朋子

昭和56年度下水道技術コース研修評価会議事録

研修期間 昭和56年9月10日～同年12月14日
場 所 : 東京インターナショナルセンターセミナーB
日 時 : 昭和56年12月11日 9:30～11:30
出席者 : 日本下水道事業団試験部試験課 中尾 正和(コースリーダー)
 同事業団計画部計画課 山田 雅利
 国際協力事業団研修事業部研修第一課 外川 徹
 研修監理員 寺西 朋子

議事次第:

討論の時間も限られているので、各項目毎に質問事項を設けたエバリュエーション用のペーパーは別途配布し、本評価会ではテーマを絞って議事を進めた。

議事進行係(外川) I 本コースの講義について追加希望科目はないか。

Mr. Rocca(ブラジル) Mr. Al-Wali(イラク) 特になし。

Mr. Ortiz(フィリピン) もっと下水道設備のメンテナンスについて講義、実習を加えてほしい。比国が将来近代設備を導入した際、設備の維持管理が問題になるから。

Mrs. Kuajara(ブラジル) "Physical-Chemical Suruey", "Sampling of Sewage" の2項を追加してほしい。

Mr. Dahmash(サウディ) "Specification for Construction of Sewer & House Connection" 追加希望。

Mr. Raman(フィジー) BOD(生化学的、酸素要求量)測定基準についても学びたい。

Mr. Thami(ビルマ) 途上国の実情に合った小規模な設備処理工場の見学も加えてほしい。又、講義については設計をもっと学びたい。

Mr. Tinapong(タイ) 設計、並びにIncineratorについて学びたい。

II 卒業論文(本コースでは毎年適当な市町村を選び、現地調査を行い、各人からその市町村の下水道計画を作成してもらう)について困難さはなかったか。又、現地調査を2回実施する必要はあるか。

Mr. Al-wali 別にさしたる難しさはなし、2回も現地に赴く必要はない。

Mr. Rocca 踏査地が広域にわたり時間がたりない。

Mr. Ortiz 2回必要なし。

Mrs. Kuajara 下水道計画については設計又経済評価についてもっと学びたかった。

Mr. Dahmash 設計に少し苦勞した。又、2回旅行は不要。

Mr. Raman 処理場の設計を試み非常に有意義であった。

Mr. Shahibu 設計は始めてである。本コース参加は上司に命令されたことであり、私が積極的に望んだものではないが、新しい経験であり有意義であった。参加者を Engineer に絞るべき。

Mr. Thamir 難しさはない。2回の現地調査は必要。

Mr. Kyaw 難しさはない。市が小さく下水道計画の施設の選択が絞られる。

Mr. Tinapong 研修員同志情報交換をして下水道計画作成にあたり非常に有意義な経験であった。

Mr. Dahmash 他 場所について他に選択はなかったか。

中尾リーダー 東京近郊に適切な小規模都市がない。

Ⅲ 主たる研修旅行を5回実施したが、回数について、又、スケジュールがきつかったか。

Mr. Al-Wali 多すぎる。

Mr. Rocca もっと地域的にかためて回数をへらすべき(チェックイン、チェックアウトの連続疲れる)。トリップアウト多いせいか宿舎(ニューシティII)の対応が悪い(他の研修員もこれには同意)見学地の撰択は良い。1回の旅行が6~7日或はそれ以上になってもかまわない。

Mr. Orfiz 講義で学んだものをそのまま見学地で見られるので、とても有意義、スケジュール丁度良い。

Mrs. Kuajahara 旅行はとても有意義である。現在の5回を3回にしてもっと地域的にかためたら。

Mr. Dahmash 多すぎる。スケジュールもきつい。沖縄、四国にも行きたかった。

Mr. Raman 研修旅行はとても有意義、ただし最後の週は東京にいたかった。(cf. 第5回研修旅行12月6日~10日、閉講式11日)

Mr. Shahibu 多すぎる。

Mr. Thamir 多すぎない。

Mr. Kyaw さまざまなタイプの処理場見学出来とても有意義、予め見学場所の英語資料を用意してほしい。

Mr. Tinapong スケジュールきつい。研修期間延長すべき。

Ⅳ パーソナルプログラム(本コースの後半に研修員の希望に応じ、都内外の近郊処理場、配管メーカー、環境庁等グループに分かれて見学した)では望んでいたものを見学出来たか?

Mr. Rocca Sludge Treatment, Sludge Disposal の概要について本プログラムでもっとふれてほしかった。

Mr. Ortiz 50~60%満足

リーダー(コメント) 見学地の撰択に苦勞した。

Mrs. Kuajara 環境庁の見学はとても有意義であった。

Mr. Raman 金町浄水場見学はとても有意義、又、日立金属熊ヶ谷工場は50%の満足度。

他研修員 満足である。

Ⅴ 研修の全体評価について

Mr. Rocca 本コース非常に高いレベルだと思う。

Mr. Orfiz JICA, 日本下水道事業団の多大なる協力を得、非常に完成度の高いコースである。

Mrs. Kuajara 他のコースに比し技術的に多くの情報が得られた。

Mr. Raman 他のコースに比べて勝るとも劣らないと自負出来る。

Mr. Shahibu 他研修員 同意

VI コースの改善について何か示唆は

Mr. Al-Wali 見学を多く講義を少く

Mr. Ortiz 研修期間が長いこともあるが1週間程度日本語コースを付け加えてほしい。

Mr. Dahmash 工事現場の見学を多く、日本語研修を付け加えた方が良い。

Mr. Raman 日本語研修付け加えるのには賛成

Mr. Thamiir 1カ月の期間延長が必要。

Mr. Kyaw 日本語研修1週間追加 大いに賛成。本コースの他に再教育コースも必要である。

Mr. Tinapong 要期間延長

VII 宿舎或は研修施設としてニューシティホテルはどうか(TICと比較して)

(今年はニューシティHを宿泊場所、隣りのセブンシティを講義場所にした)

殆ど全員 ニューシティHが良い。

第9回下水道コース集団研修日程

午前 9:30 ~ 11:30
午後 13:00 ~ 15:30

月 日	講 義 テ ー マ	講 師	所 属	備 考
9 18(金)	午前 プログラムオリエンテーション 午後 } 建設省表敬訪問 } 日本の環境汚濁防止計画 <基礎概念>	コースリーダー他 久保 赴	日本下水道事業団	
21(月)	下水道技術の基礎	奥野 長 階	東 京 都	
22(火)	午前 下水道技術の基礎 午後 現場見学(処理場)	同 上 コースリーダー他	同 上	
24(木)	} カントリーレポート	コースリーダー他		
25(金)				
28(月)	} 研修旅行(I) 北海道			
10 3(土)				
5(月)	午前 日本の下水道行政 午後 日本における都市問題(下水道法)	玉木 勉 山口 周三	建 設 省 同 上	
6(火)	午前 水処理の基礎 午後 汚泥処理の基礎	丘 依 極 同 上	日本水道コンサルタント 同 上	
7(木)	基本計画	安中 徳 二	建 設 省	
8(木)	降水量・流出量の算定 <集 水>	堀内 公 雄	東 京 都	
9(金)	午前 集水システムの設計 午後 管渠の設計	森 顕 野田 典 宏	東 京 都 同 上	
12(月)	午前 管渠の施工 午後 管渠工事現場見学	曾我部 博 同 上	同 上 同 上	
13(火)	} 研修旅行(II) 名古屋			
17(土)				
19(月)	ポンプ場の設計 <水 処 理>	前田 正 博	東 京 都	
20(火)	午前 1次処理と沈澱理論 午後 活性汚泥法	福田 寛 允 松尾 友 矩	東 京 都 東 京 大 学	
21(木)	午前 散水汙床法 午後 オキシデーションディッチ法 (中間評価)	松尾 友 矩 柏谷 衛 コースリーダー他	同 上 日本下水道事業団	
22(木)	安定化池法	柏谷 衛	日本下水道事業団	

23(金)	午前 汚水中の微生物学 午後 下水道の公衆衛生における意義	小島 貞男 真柄 泰基	日本水道コンサルタント 国立公衆衛生院	9:30 ~12:00 13:30 ~15:30
26(月) 31(土)	} 研修旅行(Ⅲ) 大阪・富山			
	<汚泥処理>			
11. 2(月)	午前 汚泥の濃縮 午後 汚泥の消化	佐藤 和明 同上	建設省 同上	
4(水)	午前 汚泥の脱水, 乾燥 午後 コンポスト	丘 依根 森 忠洋	日本水道コンサルタント 横須賀市	9:30 ~12:00 13:30 ~16:00
5(木) 6(金)	} 卒論対象地 現地踏査(1)			
	<ケーススタディ>			
9(月)	午前 下水道とエネルギー問題	津田 辰一郎	三菱総合研究所	
10(火)	午前 マスタープラン策定の方法 午後 フィージビリティスタディ の実施手法	前田 正博 柏谷 衛	東京都 日本下水道事業団	
11(水)	横浜市の処理場の設計例	大内 弘	横浜市	
	<水質監視>			
12(木)	工場排水と除害施設	鈴木 重之	横浜市	
13(金)	水質監視の現場見学	溝呂木 昇	東京都	
16(月) 21(土)	} 研修旅行(Ⅳ) 九州			
24(火)	午前 水質モニタリング <高度処理> 午後 その他の生物処理法	村上 健 田中和博	建設省 日本下水道事業団	10:00 ~12:00 13:30 ~16:00
25(水)	高度処理と再利用	京才 俊則	建設省	10:00 ~15:30
26(木) 27(金) 30(月)	} パーソナルプログラム 卒論対象地	コースリーダー 他		
12. 1(火)	} 現地踏査(Ⅱ)			
2(水) 3(木) 4(金)	} 卒論準備 卒論発表会	コースリーダー 他 コースリーダー 他		

12	7(月)	}	研修旅行(V)			
	10(木)		京都、広島			
	11(金)		午前 最終評価レポート作成	コースリーダー 他		
			午後 最終評価	同上		
			閉講式			

第9回 下水道コース集団研修 研修旅行日程

A:飛行機
T:列車
B:バス

第1回	9月28日(月)~10月3日(土)		5泊6日				
東京	(A) 函	(T) 札	(T) 帯	(T) 札	(B) 苦	(A) 東	
	→ 館	→ 定	→ 幌	→ 西	→ 幌	→ 小	→ 京
研修先	(泊) 市 下水道	(泊) 山 溪処理場	(泊) 市 下水道	(泊) 下 広水環 終末処 理場	(泊) 原 工場排 水処理	(泊) 小 水処理 場	
					ココ コーラ		古川 処理場
第2回	10月13日(火)~10月17日(土)		4泊5日 (設計者同行1名) 名古屋1泊				
東京	(T) 豊	(T) 岐	(T) 名	(T) 東			
	→ 橋	→ 阜	→ 古	→ 京			
研修先	(泊) 中 島処理 場	(泊) 市 下処理 場	(泊) 市 焼却下 処理場				
第3回	10月27日(火)~10月31日(土)		5泊6日				
東京	(T) 大	(T) 福	(T) 富	(B) 立	(B) 信	(T) 諏	(T) 東
	→ 阪	→ 井	→ 山	→ 山	→ 濃	→ 訪	→ 京
研修先	(泊) 市 下水処 理場	(泊) 永 平寺町 下水道	(泊) 市 下水道	(泊) 穂 高町ミ ニ下水	(泊) 穂 高町ミ ニ下水	(泊) 県 流域下 水道	
第4回	11月16日(月)~11月21日(土)		5泊6日 設計者同行2名 (1名福岡長崎各1泊) 1名鹿児島指宿各1泊				
東京	(A) 大	(T) 福	(B) 長	(A) 鹿	(T) 指	(T) 鹿	(A) 東
	→ 分	→ 岡	→ 崎	→ 児	→ 宿	→ 児	→ 京
研修先	(泊) 昭 和電 処工 理	(泊) 市 下水処 理	(泊) 市 下水道	(泊) 鹿 児島 尿処理	(泊) 鹿 児島 尿処理	(泊) 鹿 児島 尿処理	
第5回	12月6日(日)~12月10日(木)		4泊5日				
東京	(T) 倉	(B) 広	(T) 京	(T) 奈	(T) 京	(T) 東	
	→ 敷	→ 島	→ 都	→ 良	→ 都	→ 京	
研修先	(泊) 東 洋鋼 板理	(泊) キ リン 下水 処理	(泊) 市 下水道	(泊) 良 県下 水道			
卒論準備	11月4日(水)~11月5日(木)		1泊2日				
東京	(T) 安	(T) 東					
	→ 房	→ 京					
	(泊) 天 津						
	11月30日(月)~12月1日(火)		1泊2日				
	同上						

研修実施報告書

部長次	長	管理課長	管理課長代理	研修部長	研修部長代理

研修事業部研修第一課 57. 1 月 - 6 日
外 川 徹

1. 区 分	集団 (I, II, 日英)		個別 (単発, カウンターパート, 国際機関)		特定地域																																																																																																			
2. (集団)コース番号, コース名	(64)		下水道技術																																																																																																					
(個別)実施手続番号, 研修科目	-																																																																																																							
3. 特 選	一般, 準高級, 高級																																																																																																							
4. 関係省庁 受入機関	建設省 (都市局下水道部) 日本下水道事業団																																																																																																							
5. 受入期間	昭和 56 年 9 月 10 日から 同年 12 月 14 日まで																																																																																																							
6. G.I 送付時期 (JYCA-外務省)	56 年 4 月 8 日 (研修員来日予定日の 5 カ月前)																																																																																																							
7. 外務回答日 (第何回)	56 年 8 月 14 日 (第 2 回)	56 年 8 月 2 日 (最終)	56 年 8 月 25 日																																																																																																					
8. 研修員数	定員: 12	応募人数: 17	受入回答人数: 12	受入人数: 12																																																																																																				
9. 国別応募状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>国 名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> <th>国 名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> <th>国 名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブラジル</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>バブアニューギニア</td> <td>1</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>タイ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>シンガポール</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フィジー</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イラク</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>インドネシア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フィリピン</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>マレーシア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中 国</td> <td>1</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ビルマ</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サウジアラビア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>計</td> <td>17</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>					国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数	ブラジル	3	2	バブアニューギニア	1	0				タイ	1	1	シンガポール	1	1				フィジー	1	1							イラク	2	1							インドネシア	1	1							フィリピン	2	1							マレーシア	1	1							中 国	1	0							ビルマ	2	2							サウジアラビア	1	1				計	17	12
国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数																																																																																																
ブラジル	3	2	バブアニューギニア	1	0																																																																																																			
タイ	1	1	シンガポール	1	1																																																																																																			
フィジー	1	1																																																																																																						
イラク	2	1																																																																																																						
インドネシア	1	1																																																																																																						
フィリピン	2	1																																																																																																						
マレーシア	1	1																																																																																																						
中 国	1	0																																																																																																						
ビルマ	2	2																																																																																																						
サウジアラビア	1	1				計	17	12																																																																																																
10. 研修実施経費	基準予算 (千円)	実行予算 (A) (千円)	支出依頼済数 (B) (千円)	差額 (A-B) (千円)																																																																																																				
総 額	3,990	6,879.5																																																																																																						
人 月 数	42	42																																																																																																						
/人月当たり経費	95	163.8																																																																																																						
11. 研修管理について	※学日を / 単位として記入																																																																																																							
講師・実習数 (A) ※	講師による英語講義・実習数 (B)	管理員による通訳講義・実習数	$\frac{B}{A}$ (%)																																																																																																					
112	110	2	98.2																																																																																																					
(コメント) 標記のとおりコーディネーターの通訳業務は少く主に連絡業務他の付帯業務に当たってもらっている。今回は特に病氣, 2名の早期帰国等, 研修員の生活面での監理業務で研修管理員に奔走いただいた。本コースは担当の事務量が比較的多く, 担当, 研修管理員が一体となって, より確かな連絡体制を作ることがこれからのコース運営で肝要と思われる。																																																																																																								
12. 研修上の評価 (研修が集団の場合 A.I 記載の通りに、個別の場合あらかじめ計画した通りに実施されたかどうか。次の該当するものに○印をつける。)	(1) 計画通りに実施 (2) ほぼ計画通りに実施 (3) 計画通りに実施できない部分あり																																																																																																							
(コメント) コースリーダー中尾氏, 又, 同氏の所属する日本下水道事業団の全面的な協力を得, 各方面より講師を招き, 見学の前には関連講義, 見学の後には討論を交えた関連講義, 定期的に研修員に課する Assignment には添削を加えて返却させる。又, 本コース独自と思われる卒業論文として日本の小都市をモデルケースに下水道計画を各人に作成してもらう等, 非常に完成度の高いコースと思われる。しかしながら研修旅行が他のコースに比して多く, 類似した施設の見学もあり, 少し回数, 見学場所を見直す必要がある。																																																																																																								

建-9	コース名：建設施工	定員 10名
-----	-----------	-----------

受入期間：56.9.3～56.12.21

関係省庁：建設省，近畿地方建設局

受入機関：大阪国際研修センター

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
スリランカ	1	1			
タイ	2	2			
大韓民国	1	1			
パキスタン	0	0			
フィリピン	0	0			
マレーシア	2	1			
トリニダード・トバゴ	0	0			
ブラジル	3	2			
ホンデュラス	0	0			
イラク	2	1			
サウジアラビア	1	1			
ケニア	0	0			
ザンビア	2	1			

受入担当：稲葉 誠（本部），高畑恒雄（大阪国際研修センター）

コーディネーター：酒井保好（東京部分），江崎和子（大阪部分）

56年度 建設施工コース 第1回打ち合せ会議報告

研1 稲葉

本研修コースは、大阪センターにおける建設関係分野に係る研修コースとして昭和48年に開設された建設機械コースが土木、機械の両分野にまたがって実施されたため、専門の異なる研修員からの不満が高く、研修運営の上からも問題となったため、昭和49年度よりは建設機械コースは機械技術者のみを対象とし、一方土木技術者を対象とした当建設施工コースが51年度より開設されたものである。本年は第6回目に当たり、又、特に筑波センターに建築関係コースがされる事を受け、本コースは道路分野を中心とした施工技術に関するコースである事を明確にしようとしている。

開設当初より本コースでは京都大学工学部土木工学教室の畠 昭次郎教授にコースリーダーを依頼しており、当コースのプログラム作成等に御協力をいただいている。しかし、当コースでは、一部 東京で研修が行なわれ、又、実務応用に関する教科目はすべて建設省が担当しており、その上コースリーダーの畠教授が一時病気の為、本コースを担当されなかった事もあり、それらの経緯より本年度当コースのプログラムを作成するにあたり、各者のつっこんだ話し合いと、相互間の理解が必要であった。

そのため56年6月15日に大阪商工会議所会議室において京大、建設省、JICAで本年度の当コースの第1回打ち合せが行なわれた。打ち合せに先立ち建設省機械課菊川氏がJICAを訪れ、研一課長と打ち合せ、建設省としては当コースでの京大の立場を尊重していく事を約した。

(日時、場所)

今回の打ち合せは56年6月15日に大阪商工会議所会議室で1:30PMより4:00PMまで開かれた。

(会議出席者)

畠 昭次郎(京大工学部教授)

中村 靖雄(建設省大臣官房機械課専門官)

菊川 滋(# 調査第2係長)

谷口 肇(# 近畿地方建設局道路部機械課長)

平井課長、高畑職員(OITC)、大久保職員、稲葉(研1)

(議事内容)

まず昨年度まで建設省側の窓口であった梅田専門官に代わり、本年度より本コースの窓口となる中村専門官の紹介および挨拶があり、次に本年度の研修方針として次の様に定められた。

1. 研修は施行の計画、技術、管理の実務に重点を置く。
2. 京都大学および建設省との関係については、基礎科学的科目については京都大学が担当し、応用、実際的な科目については建設省が担当する。
3. 研修員の国情にあわせて必要性の高い工種、技術に重点を置き、最新工法等即導入する必要の無い事については紹介にとどめる。
4. 講義の内容は実務的、具体的内容とし、概説的なものはさけ、施工計画、施工技術、施工管理等の事項を中心とする。
5. 昨年度実施した来日後のプログラムの変更は今年度については基本的に行なわない。

今回の会議の一つの大きな課題として京都大学の立場をどう考慮するかという点があった。実質的には本コースのプログラムの作成及び実施はほとんど建設省が行っており、建設省としても本コースを独自のプログラムとして実施したい希望をもっている様であった。一方京都大学としても本コース開設当時よりコースリーダーとして参画しており、現在も当コースに対して参加意識を持っているものと思われる。

この様な背景を持つとともに従来、本コースは大阪センターにおける研修コースであり、本部大阪センター⇔京大、建設省という一元的なパターンから大阪センター⇔京大、本部⇔建設省、本部⇔大阪センター等、という多元的なパターンとなり、事務の一元化とは反対の方向をとりつつあると思われる。この様な状況で、京大側と建設省側との双方の間に感情的な不満があり、本年度のコースを行う上でも問題であった。しかし、今回、この会議を開くに先立ち建設省の菊川氏がJICAを来訪し、研一課長と打ち合せ、今後、建設省側は従来の方向を変更し京大の立場を尊重して行く事を約した。この事より今回の会議においては京大、建設省両者の役割分担を明確にしようとし研修方針の第2項目の様にした。しかし実際には同方針の第4項目の、応用実務中心という内容からも推定される様に京大の役割の縮小化がみられる。しかし、本コースの研修目標から鑑みるとやむを得ないと考えられる。又、本コースのコースリーダーは依然として京大側であるが、本会議においても決められた様に、先に京大側より提示された京大側講義プログラムを基にして、建設省側は本コースを一貫性のあるものとする為に、他の部分を埋めていくといった様に、建設省としては実をとった形となり、実質的な本コースの運営は建設省がうけもつ様な形となった。実際上の運営面、特に機動性及び他の関連機関への影響性を考えるならば、この事は正当なものであろう。ただ本会議中にも感じられた事であるが、建設省側としては依然として本コースを本省側のコースとしてゆきたい様であり、東京での講義数の増加を欲している様であった。この意味ならびに先の京大の件からも、本コースを円滑に進めてゆく為に大阪センターと建設省本省との緊密な情報交換が必要であり、そのため建設省及び京都大学に対し、本コースのJICA側の窓口は、大阪センターである事を明確にすると共に、その為にも建設省と本部だけによる先走りや単独の交渉はさしひかえた方が良いと考えられる。

以上の様に、本年度の当コース計画及び運営をスムーズに行うに当り、京大、建設省、JICAが緊密な連絡をとる事が必要である事が確認された訳であるが、将来の点を考慮して京都大学のコースリーダーの件に対してもう少し考慮を加えてみると、先にも述べた様に、本質的なアレンジ等はほとんどが建設省及びJICAでやられており、又、京都大学関係の講義数も減少し、又、現在ある講義でも建設省側に依頼できるものがあり、又、建設省側もその意志のあるものがある、という講義も見つけられる。

本会議において本年度は、先に京都大学側の講義プログラムを基とし、建設省が他の部分を埋めていくという方針をとったが、6月中旬現在において京都大学側より各教授等京都大学側講師の大学でのカリキュラムが送付されてきたのみで、それによる本コースプログラムへの配分という事がなされておらず、このままでは建設省JICAとしても、またしても京都大学を見切り発車した形で独走する形になってしまう。その意味でも京都大学側としてもコースリーダーを引き受けていただく以上、強いリーダーシップを示してもらわねば、と考える。この事より、将来同じトラブルを幾年もくり返すよりは、一度大きな改革を行った方が問題は少ないのではと思われる。あるいは、大学という転勤、転職といった移動の少ないメリットを利用するというのであれば、大学を変更してみる（建設省と交渉でき、かつ、大阪周辺に位置する）方法も考えられるが、京都大学側に多少しこりが残るかも知れない。

以上京都大学のコースリーダーの件について考察してみたが、以下今回の会議で問題となったグループ分け

及び全般の会議の流れについて考察する。

本会議で建設省側、特に近畿地建側より本年度も昨年度と同じく少グループ研修を行なうのかどうかとの質問が出された。

昨年度少グループ研修は3日間、道路、建設、ダムの3コースに分かれて行い、Final Reportでも評価の高いものであった。そのため当初JICA側(OITC)としては本年度も応募者の顔ぶれによってはグループ研修を数日とする事も良いと考えていたが、建設省側特に直接受け入れ側の近畿地建としては、アレンジに困難が伴う事及び集団研修という方針がくずれるのではという疑問が出され、この点については否定的であった。本コースはもちろん他のコースをみても、純粋にG.Iにそった研修員というのは少なく、幅広いフィールドの研修員がやって来るため、研修員としては自分の専門の狭いフィールドの研修を望むのは当然であり、少人数のグループ研修に人気があるのは当然である。しかし本質的に本コースは個別コースでなく集団研修であり、G.Iで前もって当コースの講義実習内容は知らされており、又、同一コース内での講義は内容が全く異質であるとは考えられない等の点より、一度立てられたスケジュールを研修員が来日してから変更するのは、いかに研修員にとっては好評であるとはいえ、ある意味で研修員に媚びるものであり、JICAの主体性も失なわれると考えられる。その意味でも原則として一度立案した研修プログラムは一部研修員の要求等で変更する事のない様にしなければならず、又、そのためにもプログラムはよく練られなければならないのももちろんである。又、来日後に研修員に不満を言わないためにも、来日前に、特にA2-3 formの提出時に、在外公館等でその点についても強調してもらい、G.Iに合致しない者の推薦はしない様にしてもらう様にJICAとしても言っている様であるが、なお強調すべきであろう。

次に会議の流れについて簡単に報告すると、本会議は初頭より最後まで、建設省が質問し、JICAが答えるといったくり返しであり、建設省側と島教授との直接の話し合いが少なく、OITCを介在しての話し合いであった。本会議では建設省と京都大学側の連絡の緊密化、感情的しこりをとり除くという意味合いを持っていたのであるから、双方の話し合いの機会をつくるべきであったと思われる。又、京都大側にもっと質問、あるいは本研修についての考えをしゃべってもらい、コースリーダーとしての方針、考え等を持ってもらうべきであったと考える。

以上

昭和56年度 建設施工コース日程

月日	曜	課 題	講 師 及 び 見 学	月 日	曜	課 題	講 師 及 び 見 学
9/3	木	米 日	T. I. C	9/30	水	建設機械研究所	静岡県富士市
4	金	"	"	10/1	木	大阪移動	OITC
5	土	"	"	2	金	OITC	OITC
6	日	"	"	3	土	オリエンテーション・カンパニレポート	-
7	月	オリエンテーション	"	4	日	-	-
8	火	"	"	5	月	土 質 工 学	大西助教授 京都大学工学部
9	水	"	"	6	火	土工(機械能力算定)	横田所長 近畿地建 技術事務所
10	木	"	"	7	水	道路土工(施工法)	高野課長 "
11	金	"	"	8	木	同 見 学	道路公団
12	土	"	"	9	金	施工管理(事例研究)	佐藤次長 日立製作所
13	日	"	"	10	土	"	"
14	月	建設省表敬・日本の建設業	建設省国際課/機械課	11	日	-	-
15	火	-	-	12	月	岩 盤 工 学	足立助教授 京都大学防災研
16	水	国際工事の実際	川村光雄 海外建設協会	13	火	工程管理(PERT & CPM)	吉川教授 "
17	木	国際契約	池田 甫 日本道路公団	14	水	同 上	"
18	金	道路舗装工	小林 茂・飯田章夫 日本道路公団	15	木	砂 防 工	池淵教授 "
19	土	-	-	16	金	同 見 学	六甲砂防ダム 近畿地建 六甲砂防工事
20	日	-	-	17	土	-	-
21	月	国際融資と事業計画	竹内義人 O.E.C.F	18	日	-	-
22	火	国際契約	平野 実 日本道路公団	19	月	道路土工(施工法)見学	山陽道(姫路)
23	水	-	-	20	火	道路舗装工見学	"
24	木	建設省 建築研究所	午後13:00~16:00 (サンルート筑波)	21	水	道路維持工	"
25	金	" 土木研究所	午前10:00~12:00 午後13:00~15:00	22	木	同見学	"
26	土	-	-	23	金	地盤改良工	中沢重一 鴻池組
27	日	-	-	24	土	-	-
28	月	施工計画	北井良吉 国鉄岐阜工務局(午前のみ)	25	日	-	-
29	火	建設機械化研究所	静岡県富士市	26	月	地盤改良工見学	琵琶湖入工島 滋賀県

月日	曜	課	題	講師及び見学	月日	曜	課	題	講師及び見学
10/27	火	鋼橋架設		今村能久	11/24	火	コンクリート橋見学	PSコンクリート	
28	水	コンクリート見学		谷本講師	25	水	同見学	大成建設	
29	木	建設機械工場見学		神戸製鋼	26	木	高層建築		
30	金	鋼橋架設見学		大嶋門橋	27	金	同見学		
31	土	帰路			28	土	-		
11/1	日	-			29	日	-		
2	月	河川施設工(護岸・堤防)		岩田課長	30	月	グループトレナーニング	道路(近畿地域建設神高高速道事務所) ダム(中部地域木曾川流域 他) 建築(大成建設)	
3	火	-			12/1	火	(道路, ダム, 建築)		
4	水	同見学		淀川工事事務所	2	水			
5	木	ダム工		今副所長	3	木	コンクリート構造物見学		
6	金	同見学		一畑ダム	4	金	工事設備		
7	土	-			5	土	-		
8	日	-			6	日	-		
9	月	シールド工(下水道)		北村正夫	7	月	研修旅行		九州地建
10	火	コンクリート構造物		谷本講師	8	火	"		
11	水	同見学		武庫川上流域下水道建設事務所 兵庫県	9	水	"		
12	木	" (地下鉄)		大阪市交通局	10	木	"		
13	金	トンネル工		講義	11	金	"		
14	土	-			12	土	-		
15	日	-			13	日	-		
16	月	同上見学		国鉄大阪工事局	14	月	報告書作成		
17	火	基礎工		谷本講師	15	火	"		
18	水	"		"	16	水	"		
19	木	土地造成		北摂ニュータウン	17	木	効果測定		PM2:00~4:00
20	金	建設機械工場		小松製作所 枚方	18	金	閉講式		AM11:00~PM1:00
21	土	-			19	土	-		
22	日	-							
23	月	-							

建-10	コース名：建設行政セミナー（土質及び基礎工学）	定員 10名
------	-------------------------	-----------

受入期間：56.10.1～56.11.16

関係省庁：建設省計画局国際課

受入機関：

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
インドネシア	1	0			
マレーシア	1	0			
フィリピン	0	0			
シンガポール	2	1			
タイ	2	1			
中国	1	1			
バブアニューギニア	0	0			
イラク	2	1			
クウェート	0	0			
サウディアラビア	0	0			
トルコ	1	1			
アラブ首長国連邦	0	0			
ガーナ	2	2			
コロンビア	2	1			
ペルー	1	1			

受入担当：外川 徹

コーディネーター：管原甫夫

昭和56年度建設行政セミナー（土質及び基礎工学）に係る研修評価会議事録（要旨）

日 時； 昭和56年11月13日10:30~12:00

場 所； 東京インターナショナルセンター 講義室 No. 1

出席者； 研修員 8名（別紙参照）

森 博 氏（コースリーダー）

外 川 徹 （国際協力事業団研修担当）

管 原 甫 夫 （研修監理員）

1. 集合ブリーフィングについて

特にコメントなし

2. オリエンテーション（TICで実施）について…

Mr. Laith（イラク）のとても有意義であったという意見の他参加者全員ある程度の評価を示した。

3. 講義について

1) Q. 本年度のセミナーは2つの大きなテーマ；土質工学と基礎工学をとったが、今後大きなテーマを取るべきか或は特にテーマを絞ってセミナーを実施すべきか（森コースリーダー）

Dr. Kumapley（ガーナ）

実施年度によりセミナーのテーマを変えて行くこともいいだろう。

Miss Lily Loo-Kung（ペルー）

建設の中でいろいろ分野があり（例えば住宅、橋梁等）あるテーマに絞った方が良い

Dr. Kumapley（ガーナ）

やはり毎年テーマを変えてセミナーを実施すべし、"建設行政"というタイトルがあまり雑多なテーマを含み過ぎである。

2) 講義のレベルについてはどうか、参加者全員理解出来たか（森コースリーダー）

Mr. L. Beltran Moreno（コロンビア）

皆がフォロー出来たと思う。

Mr. Lai Kuong Kin（シンガポール）

講義の中には母国での応用が難しいものもある。あまりに理論的なものが多かった。

Mr. Laith（イラク）

応用のやり方を講義の中から学びたかった。

Mr. S. Noppaladarom（タイ）

特定のテーマのみ重点が置かれ過ぎ講義内容をバランスよく…

Mr. Lai Kuong Kin（シンガポール）

講義の中身に重複がある。

3) Q 講義のテーマ別の時間の配分について（森コースリーダー）

Mr. Lisandro Beltran（コロンビア）

ダム、ダム改良についてもっと講義の時間を割当ててほしい。

森コースリーダー

今回は大根氏がそれに関連した講義を行ったと思うが…

Mr. Lisandro Beltran (コロンビア)

同氏の関連講義をもっと聞きたかった。…

Dr. Kumapley (ガーナ)

いろいろな参加国がありすべての国に適用出来るテーマを同時に講義に盛り込むことは難しい。

森コースリーダー

一案に2～3のテーマ別の講義を同時に並行させ参加研修員が選択出来る方法もある、もっとも講義室、講師の問題があり簡単には出来ないが…

研修員 (全員)

(賛同の意味でうなづく)

4) 講師についてはどうか… (森コースリーダー)

Dr. Kumapley (ガーナ)

英語で講義をするのに若干苦労されている講師もおられるようだがコミュニケーションにさして問題はない。

Mr. Lisandro Beltran (コロンビア)

全く問題なし

森コースリーダー

本年度も建設省他その方面の一流の方々に講師として来ていただいたので講師については皆さん評価して下さいと思うが…

研修員 全員

異存なし

5) 研修期間については…

(森コースリーダー)

Mr. Lisandro Beltran (コロンビア)

現在のコースにダムの講義、見学を加えてほしいがそうすると若干の期間延長をした方がよい。

Dr. Kumapley (ガーナ)

直接研修期間と関連する問題かどうかわからぬが、講師と研修員の間での議論をもっと必要である。今の講義のやり方と講師の英語力或は研修監理員を介するやり方のために、議論をすると与えられた講義時間をくうことになる。改めて議論の時間も増やすとなると全体の期間も延ばす必要がある。

6) 見学について…

(外川)

Mr. Kumapley (ガーナ)

多摩ニュータウン、厚木ニュータウンの見学は有意義であった。

Mr. Lisandro Beltran (コロンビア)

各地で歓待を受けた。ニュータウン開発の見学は有益であった。

7) 見学地の選択について(森コースリーダー)

私は地下鉄の工事現場の見学も有意義であろうと提言したが本年度の見学には盛り込めなかった。

地下鉄の工事現場はどうだろう(森コースリーダー)

研修員全員

同意

Miss Lily Loo-Kung (ペルー)

ニュータウンの見学はとてもいい選択だ。私自身もニュータウンは興味あるテーマだ。

Mr. Lai K. Kin (シンガポール)

工事現場をもっと見たかった。(ニュータウンだけでなく土質工学に関連した工事現場)

Q 見学地で良い説明者はいたか?

(森コースリーダー)

Dr. Kumapley (ガーナ)

研修監理員 管原氏の説明に頼る事が多かったが説明に技術的なことが伴うので直接話し合いたい。(英語で)

8) その他について (外川)

Dr. Kumapley (ガーナ)

受入れの通知が遅すぎる。

Q どれ位必要か (外川)

Dr. Kumapley (ガーナ)

最低一ヶ月

Mr. A. Brown (ガーナ)

滞在費が少過ぎる

Q イラクのFelyah氏の意見があまり聞かれないが(森コースリーダー)

Mr. Laith Salim Felyah (イラク)

本コースについては満足している。

Dr. Kumapley (ガーナ)

諸手当、特に書籍手当が少い。

9) その他生活について

Q 講義室は今回、ホテルの会議室を使ったが(愛宕山東急イン)どうか

(外川)

研修員全員

満足している。

Q 宿舎はTICでも良いか? (外川)

研修員の殆ど全員

TICの方が便利だ。

10) カントリーレポートの発表会について

充分用意周到が必要であり今回は少し配慮が足りなかった(森コースリーダー)

Q (J I C A 側) 出来ればカントリーレポートを要請書に添付させ参加者の希望、背景を調べた上、
コースの運営を計画出来ればいい。(森コースリーダー)

A 在外公館に送るコースの実施要領 (インフォメーション) には、カントリーレポートの要請書へ
の添付を明記しているが徹底されていなければ外務省を通じて応募者或は参加者に再確認させるこ
とが出来ると。(外川)

11) 講義の参考書については

毎年テーマが異なるので特にテキストは一本に作成していない。(森コースリーダー)

Dr. Kumapley (ガーナ)

事前にまとまった物を配布してほしい。予習或は目を通し概略、質問事項なりとも把握しておき
たい。

森コースリーダー

昨年は参加者の平均年齢が30を越え、大学を出て10年近くもなると大学で学んだ基本事項を
忘れていることもあり、コースの最初に基本事項を復習することも有意義であろう。

研修員全員

納 得

— 閉 会 —

昭和56年度建設行政セミナー(土質及び基礎工学)日程

月 日	研 修 内 容	場 所	講 師
10 1 木	来 日		
2 金	来 日 手 続		
3 土	休 み		
4 日			
5~9	オリエンテーション	東京インターナショナルセンター	JICA
10 土	休 み		
11 日			
12 月	1100~1200 ガイダンス 表 敬 訪 問	愛宕山 東急イン 建 設 省	建設省計画局国際課 建設省計画局
13 火	1000 ~1200 (講義)土質試験法	愛宕山 東急イン	東京大学生産技術研究所第5部助教授 龍岡 文 夫
	1330 ~1530 (講義)土構造物概論	"	東京工業大学工学部土木工学科教授 渡 辺 隆
14 水	1000 (") 構造物基礎概 論	"	東京工業大学土木工学科助教授 木 村 孟
	1330 (") 土質試験法	"	東京大学生産技術研究所第5部助教授 龍岡 文 夫
15 木	1000 (") 土構造物概論		東京工業大学土木工学科教授 中 瀬 明 夫
	1330 (") "		愛知工業大学工学部土木工学科教授 大 根 義 男
16 金	視 察 旅 行 (多摩ニュータウン造成現場) 含トンネル 三沢川分水路	東 京 近 郊 (八王子、厚木)	日本住宅公団南多摩開発局 総務部 宅地開発公団 厚木開発事務所
17 土	休 み		
18 日			
19 月	1000 ~1200 (講義)土の動的問題	愛宕山 東急イン	東京大学工学部土木工学科教授 石 原 研 而
	1330 ~1530 (") 構造物基礎概 論	"	東京工業大学大学院総合理工学研究科 社会開発工学専攻助教授 岸 田 英 明
20 火	1000 ~1200 (") "	"	木 村 孟
	1330 ~1530 (") 土の動的問題	"	建設省土木研究所振動型研究室長 岩 崎 敏 男
21 水	1000 ~1200 (") 構造物基礎概論	"	岸 田 昌 明
	1330 ~1530 (") 地盤改良法	"	運輸省港湾技術研究所 土質部地盤改良研究室長 寺 師 昌 明
22 木	1000 ~1200 (") 構造物基礎概 論	"	東京理科大学理工学部教授 福 岡 正 己
	1400 1700	移 動(東京→筑波)	

月 日	研 修 内 容	場 所	講 師
23 金	視 察 旅 行	筑波研究学園都市 土 木 研 究 所	土木研究所企画部企画課
24 土	休 息		
25 日			
26 月	構造物設計実習 (10:00~15:00)	(株)長大橋設計センター (株)基礎地盤コンサルタンツ	} 二班にわかれる
27 火	1000 ~1200(講義)基礎構造物設計 法(橋梁基礎)	愛宕山 東急イン	
	1330 ~1530()基礎構造物設計 法(建物耐震)	"	建設省建築研究所第三研究部 杉村義広
28 水	1000 ~1200()構造物基礎概論	"	東京理科大学工学部教授 福岡正己
	1330 ~1530()土質調査法	"	(株)基礎地盤コンサルタンツ社長 森 博
29 木	1000 ~1200()土構造物概論	"	大根義男
	1330 ~1530()土の動的問題	"	岩崎敏夫
30 金	1000 ~1200()土質調査法	"	森 博
	1330 ~1530()構造物基礎概論	"	福岡正己
31 土	休 息		
11 1 日			
2 月	東京 → 金沢		
3 火	北陸自動車道現場視察		
4 水	(午前)金沢 → 神戸 (午後)大鳴門橋現場視察		
5 木	本四橋坂出児島ルート視察		
6 金	(午前)岡山 → 神戸 (午後)六甲アイランド埋立 現場視察		
7 土	京都市内視察		
8 日	京都 → 東京		
9 月	1000~1700 実習(現場土質試験)	都内又は近郊	
10 火	1000~1700 " (室内土質試験)	東 工 大	
水	1000 ~1200(討義)土質調査 土質試験	愛宕山 東急イン	(株)基礎地盤コンサルタンツ 森 博
	1330 ~1530 予 備		
木	1000 ~1200(討義)地盤改良法		運輸省港湾技術研究所 土質部地盤改良研究室長 寺師昌明
	1330 ~1530()基礎設計法		土木研究所基礎研究室長 塩井幸武

月 日	研 修 内 容	場 所	講 師
11. 13 金	10:00~12:00 エバリュエーション 12:00~13:30 Farewell party	T I C	
14 土	休 日		
15 日			
16 月	離 日		

資料1

昭和56年度建設行政セミナー（土質及び基礎工学）企画案

1. 目 的

- 1) 開発途上国からの研修生に対して、土質及び基礎工学分野の基礎理論、応用技術、各種構造物設計及び設計評価法を教授し、公共事業及び建設プロジェクトの計画実施のため必須の知識を与えることにより途上国の人材養成に寄与する。
- 2) 研修生相互及び日本人講師とのあいだに土質及び基礎工学に関する情報及び意見交換の場を提供する。

2. 期 間

56年10月1日（木）～ 11月16日（月）

3. 場 所

東京 愛宕山東急イン はか

4. 参加研修員

1) 応募資格

- i 国又は地方政府及び関係団体において建設行政又は建設プロジェクトにたずさわる者で、実務経験8年以上を有する者であること。
- ii 大学卒及びこれと同等の資格を有する者で、土質工学の基礎知識を修得している者であること。
- iii 年令45才以下の者であること。
- iv 英語が堪能な者であること。

2) 募集割当国

インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、中国、P.N.G。
イラク、クウェート、サウジアラビア、トルコ、ア首連、ガーナ、コロンビア、ペルー
なお、9月10日現在の研修応募者は、別紙2のとおり

5. プログラム概要（仮案）

1) オリエンテーション

2) 講 義

- | | |
|--------------------|-----------------|
| (1) 土構造物概論 | (i) - 1 土質構造物概論 |
| (2) 基礎構造物概論 | (i) - 2 土の動的問題 |
| (3) 土質調査及び土質試験法 | |
| (5) 地盤改良法 | |
| (6) 基礎設計法及び土構造物設計法 | |
| (7) そ の 他 | |

3) 討 議

地盤改良法、基礎の設計、プロジェクトフィーゾビリ等について日本人講師及び研修生の間で討議

する。

4) 実 習

- (1) 土質調査法
- (2) 土質試験法
- (3) 基礎設計法
- (4) 建設プロジェクトの経済的、工学的評価

5) 視 察 旅 行

- (1) 各種基礎工事、地盤改良施工中現場
- (2) 大規模プロジェクト施工現場

なお、講義は英語で行なわれる。

研修プログラムの時間割案は別紙3のとおり

6. 応募日程等

- 1) 応募各国は応募者についてA3フォーム(応募様式)を作成のうえ1981年8月10日までに在各国大使館へ、A3フォームを提出する。
- 2) 日本政府は各国政府に対し、1981年9月10日までに研修生受入れの可否について回答する。
- 3) 応募者は、A3フォーム提出時に下記の主題のうちの1つについてレポート(A4 10ページ以内)を提出することがもとめられている。
 - (i) 応募各国における代表的な「土」の分布、性状、工学的特性 etc
 - (ii) 応募者がたずさわった基礎設計例
 - (iii) 応募者がたずさわった土構造物設計例
 - (iv) 応募者がたずさわった地盤改良設計例
 - (v) 応募者がたずさわった土質調査例及び土質試験例
- 4) 応募者は研修受入れの決定を得た後、日本到着時に下記の事項についてレポートを提出することがもとめられている。
 - (i) 研修生が所属する機関の組織図
 - (ii) " の業務
 - (iii) 研修生の従事する業務
 - (iv) 参加国における土質工学に関する研究機関、学会等の名称と活動内容

7. そ の 他

1) 研修生への給付

JICAは規定に従い次の費用を負担する。

- (i) 航空運賃(エコノミークラス)
- (ii) 日当3,750円/日、書籍費、資料輸送費及びTJCにおける宿泊費、朝食費
- (iii) 医療費
- (iv) 研修旅行費

2) 宿泊施設

愛宕山 東急イン

〒105 東京都愛宕1-6-6 (431)0109

8. 実施体制(案)

- 1) 建設省計画局国際課が国際協力事業団からの依頼により実施する。
- 2) 研修の企画及び実施について建設行政セミナー企画委員会(委員長、福岡正己)に指導を依頼する。
- 3) 森 博氏に国際協力事業団よりコースリーダーに委嘱し、研修の実施について指導調整を依頼する。
- 4) 国際協力事業団研修事業部研修第一課は、研修実施の実務を担当する。
- 5) 国際協力事業団研修監理員は研修の実施全般の調整にあたる。

建設行政セミナー企画委員会設置要綱(案)^{※(注)}

1981. 9. 29

第 1 条 建設省に建設行政セミナー企画委員会(以下「委員会」という)を設置する。

第 2 条 委員会は次の事項を審議する。

- (1) 建設行政セミナーの企画に係る基本的事項
- (2) 建設行政セミナーの実施に係る基本的事項
- (3) その他必要な事項

第 3 条 委員会は委員長1名、委員10名以内をもって組織する。

第 4 条 委員は委員の互選により選出する。

第 5 条 委員は別紙1のとおりとする。

第 6 条 委員長は委員会の会務および議事を総括する。

第 7 条 委員会の招集は委員長が行う。

第 8 条 委員会に必要な応じ幹事会を設置する。

第 9 条 幹事会は委員会からの諮問により次の事項を審議し結果を委員会に報告する。

- (1) 建設行政セミナーの企画に係る基本的事項
- (2) 建設行政セミナーの実施に係る基本的事項
- (3) その他必要な事項

第 10 条 幹事会は幹事長1名、幹事 名をもって組織する。

第 11 条 幹事長は委員のなかから、委員の互選により指名する。

第 12 条 幹事は別紙2のとおりとする。

第 13 条 幹事長は幹事会の会務および議事を総括する。

第 14 条 幹事会の招集は幹事長が行う。

第 15 条 委員会および幹事会の庶務は建設省計画局国際課が行う。

(注) 本委員会は建設省が独自に設置しているもので、研修事業部長も委員に委嘱されているが、JICA は一切委嘱依頼をしていない。

別紙 1

(順不同)

委員	福岡正己	東京理科大学教授
"	木村孟	東京工業大学助教授
"	奥村樹郎	運輸省港湾技術研究所土質部長
"	金安公造	建設省土木研究所 企画部長
"	松尾茂生	" 機械施工部長
"	森博	(株)基礎地盤コンサルタンツ社長
"	三谷浩	建設省計画局国際課長
"	山村寛	国際協力事業団研修事業部長

研修実施報告書

部 長	次 長	管理課長	管理課長 代 理	研修課長	研修課長 代 理

研修事業部研修第一課 56年12月12日
外 川 徹

1. 区 分	(集団) (I, II, 日墨) 個別(単発, カウンターパート, 国際機関) 特定地域																																											
2. (集団)コース番号, コース名 (個別)実施予算番号, 研修科目	(42) 建設行政セミナー(土質及び基礎工学)																																											
3. 待 遇	一般, 準高級・高級																																											
4. 関係省庁受入機関	建設省																																											
5. 受入期間	56年10月1日から 56年11月14日まで																																											
6. G. I. 送付時期(JICA-外務省)	56年4月24日(研修員来日予定日の5カ月前)																																											
7. 外務回答日	(第1回)56年9月11日 (第2回)56年9月22日 (最終)56年9月25日																																											
8. 研修員数	定員: 10	応募人数: 15 受入回答人数: 10 受入人数: 8																																										
9. 国別応募状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>国 名</th> <th>応 募 数</th> <th>受 入 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガ ナ</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コ ロ ソ ビ ア</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(2名受入通知出すも1名が病気で未来日)</td> </tr> <tr> <td>中 国</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(受入通知出すも未来日先方より何の連絡なし)</td> </tr> <tr> <td>シ ン ガ ポ ー ル</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>イ ラ ク</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>タ イ</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ト ル コ</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ベ ル ー</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>マ レ イ シ ア</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>イ ン ド ネ シ ア</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		国 名	応 募 数	受 入 数	ガ ナ	2	2	コ ロ ソ ビ ア	2	1	(2名受入通知出すも1名が病気で未来日)			中 国	1	0	(受入通知出すも未来日先方より何の連絡なし)			シ ン ガ ポ ー ル	2	1	イ ラ ク	2	1	タ イ	2	1	ト ル コ	1	1	ベ ル ー	1	1	マ レ イ シ ア	1	0	イ ン ド ネ シ ア	1	0	計		
国 名	応 募 数	受 入 数																																										
ガ ナ	2	2																																										
コ ロ ソ ビ ア	2	1																																										
(2名受入通知出すも1名が病気で未来日)																																												
中 国	1	0																																										
(受入通知出すも未来日先方より何の連絡なし)																																												
シ ン ガ ポ ー ル	2	1																																										
イ ラ ク	2	1																																										
タ イ	2	1																																										
ト ル コ	1	1																																										
ベ ル ー	1	1																																										
マ レ イ シ ア	1	0																																										
イ ン ド ネ シ ア	1	0																																										
計																																												
10. 研修実施経費	基準予算(円)	実行予算(円)	支出依頼済額(円)	差額(A-B)(円)																																								
総 額	1,900	2,018.48																																										
人 月 数	20	20																																										
1人月当たり経費	95	100.924																																										
11. 研修監理について	※半日を1単位として記入																																											
講義・実習数(A)	講師による英語講義・実習数(B)	監理員による通訳講義・実習数	$\frac{B}{A}$ (%)																																									
47	33	14	70%																																									
<p>(コメント)本コースの研修監理業務は標記のとおり通訳業務が少く、監理員には講師との連絡、講義資料の準備等も主たる業務としてやってもらっている。本年度の監理員は菅原雨夫氏であった。本人にとっては最初のコースであり慣れない事もあるが見学の際はもっと積極的に通訳をしてほしかった。その点を含めて反省すべき点はいくつかある。</p> <p>その反面各講師、各研修員とは誠意ある態度で接しなかなか好評であった。講師は殆ど英語で講義を行うとは言え、見学旅行の際は英語の説明は監理員に任せられるので今後監理員のより一層周到な準備が必要であろう。</p>																																												
12. 研修上の評価(研修が集団の場合G. I. 記載の通り、個別の場合あらかじめ計画した通りに実施されたかどうか。次の該当するものに○印をつける。)	<p>(1) 計画通りに実施</p> <p>(2) はほぼ計画通りに実施</p> <p>(3) 計画通りに実施できない部分あり</p>																																											
<p>(コメント)本コースは土質及び基礎工学というテーマにして2年目であり昨年同様土質工学会に属する学識経験者、専門家を中心に企画委員会がもたれ講義の内容、講師の選択、見学等満足のいくものであった。研修員よりダム工事、地下鉄工事の現場もみたいとの要望もあり又講義のテーマをもっと絞る、或は時間的に余裕をもって予め各テキストを渡してくれと言った要望もあり今後、限られた時間の中での講義、見学の組み方が重要なポイントとなる。又より確かな連絡体制の確立が必要であろう。</p>																																												

建-11	コース名：地震工学セミナー（準高）	定員 10名
------	-------------------	-----------

受入期間：56.10.15～56.11.14（隔年実施）

関係省庁：建設省建築研究所

受入機関：筑波インターナショナルセンター

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
インド	1	1			
インドネシア	1	0			
パキスタン	0	0			
フィリピン	2	2			
エクアドル	0	0			
チリ	1	1			
ペルー	1	1			
ボリビア	2	2			
メキシコ	1	0			
イラン	0	0			
トルコ	1	1			
アルジェリア	0	0			
エジプト	1	0			

受入担当：石田幸男（本部），新垣和成（筑波インターナショナルセンター）

コーディネーター：福井良子

第2回地震工学セミナーのスケジュール

1981. 10. 15~11. 14

月	火	水	木	金	土	日
11	12	13	10/15	16	17	18
			日本到着 JICAのオリエンテーション	JICAのオリエンテーション	筑波へ移動	
19	20	21	22	23	24	25
開講式 建研見学	持参論文の 発表・討論	総論 (大塚)	(地震現象) 地震活動	テクトニクスと 地震 (石橋)	入力地震動 の現状 (渡部)	
		震源の物理学 (須藤)	(宇津)	活断層 (垣貝)		
26	27	28	29	30	31	11/1
地震観測 (渡辺)	地震観測 (山川) 地殻変動 連続観測 (岡田)	(観測技術) 測地測量 (藤井)	地球物理学的 諸観測 (萩原) 地球化学的 観測 (脇田)	観測データの 処理システム (溝上)		研修 旅行
2	3	4	5	6	7	8
	研修旅行		(大竹) 地震予知	(地震災害) 地震予知(大竹)		
			被害予測 (服部)	被害総論 (表)		
9	10	11	12	13	14	
(棚橋) 都市防災	筑波学園 都市見学	閉講式			帰国	
防災体制 (小松原)	最終論文発表					

第2回地震工学セミナー研修旅行日程表

月日	見学先	宿泊先	備考
11. 1 (日)	<p>牛久 → 東京 → (二条城、平安神宮、銀閣寺、比叡山)</p> <p>7時50分 (ひかり95号) → 市内見学</p> <p>9時36分 → 12時29分 → チャーターバス →</p> <p>(駅改札口で待合せ)</p>	<p>京都</p> <p>比叡山国際観光ホテル</p> <p>TEL 075-701-2111</p> <p>Ⓧ 京都市左京区比叡山一本杉</p>	<p>申込 渡辺</p> <p>◎ 11.817 (税込)</p>
2 (月)	<p>宇治 → 京都大学防災研究所 → 平等院 → 奈良</p> <p>8:30 (10:00~12:00) Ⓧ 0774-32-3111</p> <p>谷木 → 防災研、渡辺 (興福寺 東大寺)</p> <p>→ チャーターバス →</p>	<p>奈良</p> <p>ビジネスホテル新大宮</p> <p>TEL 0742-34-1166</p> <p>ツイン Ⓧ ◎ 7,500 (税込)</p> <p>シングル Ⓧ ◎ 4,000</p> <p>Ⓧ 奈良市芝辻町2丁目11の16</p>	<p>申込 服部</p>
3 (火)	<p>奈良 → 京都 → 名古屋</p> <p>(法隆寺、薬師寺、唐招提寺)</p> <p>タクシー (座席指定) → 京都 → 名古屋 5分</p> <p>8時30分 → 近鉄奈良駅 → 15:35 → 名古屋 → ホテル</p> <p>16:05 発(ひかり142号) → 16:55 着</p>	<p>名古屋</p> <p>ホテルリッチ</p> <p>TEL 052-231-5611</p> <p>◎ 名古屋市中区栄2丁目3の9</p>	<p>申込 服部</p> <p>◎ 5,000 (税込)</p>
4 (水)	<p>名古屋 → 名古屋大学 → トヨタ自動車工場 → 名古屋 → 東京 → 上野 → 牛久</p> <p>8:20 (9:00~11:00) (13:00~15:30) (ひかり18号) → 17:31 → 19:32 → 20:17</p> <p>→ チャーターバス →</p> <p>名古屋大学理学部地震予知観測センター</p> <p>◎ 052-781-5111 (内6428)</p> <p>研修生 8名</p> <p>引率者 渡辺、高平、服部 11名</p>	<p>豊田</p> <p>豊田会館 (豊田市トヨタ町1番地)</p> <p>担当課長、広報部、第3広報課長赤田、係員那須)</p> <p>TEL 0565-28-2121 (2242)</p>	

研修実施報告書

所 長	総務課長	総務課長 代 理	研修課長	研修課長 代 理

56年12月10日

1. 区 分	集団 (I, II, 日墨) 個別(単発, カウンターパート, 国際機関) 特定地域																															
2. (集団)コース番号, コース名 (個別)実施予算番号, 研修科目	() ()	地震工学セミナー																														
3. 待 遇	一般, 準高級, 高級																															
4. 関係省庁受入機関	建設省 建築研究所 建築研究振興協会																															
5. 受 入 期 間	56年10月15日から 56年11月14日まで																															
6. G. I. 送付時期 (JICA→外務省)	年 月 日 (研修員来日予定日の カ月前)																															
7. 外務回答日	(第1回) 年 月 日 (第2回) 年 月 日 (最終) 年 月 日																															
8. 研 修 員 数	定員: 10	応募人数: 10 受入回答人数: 10 受入人数: 8																														
9. 国別応募状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">国 名</th> <th style="width: 20%;">応 募 数</th> <th style="width: 20%;">受 入 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ポ リ ヴ ィ ア</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>チ リ</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>エ ジ プ ト</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>イ ン ド</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>イ ン ド ネ シ ア</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>ベ ル</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>フ ィ リ ピ ン</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>ト ル コ</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> </tbody> </table>		国 名	応 募 数	受 入 数	ポ リ ヴ ィ ア	2	2	チ リ	1	1	エ ジ プ ト	1	1	イ ン ド	1	1	イ ン ド ネ シ ア	1	0	ベ ル	1	1	フ ィ リ ピ ン	2	2	ト ル コ	1	0	計	10	8
国 名	応 募 数	受 入 数																														
ポ リ ヴ ィ ア	2	2																														
チ リ	1	1																														
エ ジ プ ト	1	1																														
イ ン ド	1	1																														
イ ン ド ネ シ ア	1	0																														
ベ ル	1	1																														
フ ィ リ ピ ン	2	2																														
ト ル コ	1	0																														
計	10	8																														
10. 研修実施経費	基準予算 (円)	実行予算 (円)	支出依頼済額 (円)	差額 (A-B) (円)																												
総 額	950	3,173	3,118	55																												
人 月 数	10																															
1人月あたり経費	95																															
11. 研修監理について	※半日を1単位として記入																															
講義・実習数(A)※	講師による英語講義・実習数(B)	監理員による通訳講義・実習数	$\frac{B}{A}$ (%)																													
27	27	0																														
(コメント)																																
全講師とも英語にて講義の為、問題なし																																
12. 研修上の評価(研修が集団の場合G. I. 記載の通りに、個別の場合あらかじめ計画した通りに実施されたかどうか。次の該当するものに○印をつける。)		(1) 計画通りに実施 (2) ほぼ計画通りに実施 (3) 計画通りに実施できない部分あり																														
(コメント) ほぼ計画通りに実施できたが、土曜、日曜を利用して、旧知の地震工学コースの講師に会ったり、東京の民間会社の研究機関(応用地質調査事務所、沖電機及び東大の地震研を訪問する研修員が半数以上を占めた事を考えると、次回は、当初から日程に組み込んだ方がよいと思われる。																																

